

# 太田郷土史誌研究会 活動報告書 (No.3)



太田郷土史誌研究会

2019/03 発行

## はじめに

太田南地区の風土や文化を歴史の観点から調査・研究する太田郷土史誌研究会が平成 26 年 5 月に発足して 5 年目になります。

これまでの 4 年間は、主に太田南地区に残された史跡や貴重な資料を収集・研究し、パンフレット等にまとめ、地区の皆様にお知らせしてまいりました。

特に、平成 27 年度は、高松市の「ゆめづくり事業」に参画し、それまでの蓄積をリーフレット・資料集などにまとめるとともに、太田南コミュニティセンターに総合案内板を、各史跡に現地説明板を設置し、地区住民の方に太田南の風土や文化を広く知っていただくツールを整備しました。

平成 30 年度は、引き続き史跡や貴重な資料の収集・研究を行うと共に、平成 29 年度から勉強を開始した「出水（ですい）」について、月 1 回現地調査を行いました。

その現地調査結果を元に、香川大学、香川大学教育学部附属中学校から講師をお招きして、2 回目の「出水を語る会」を開催し、皆様から多くの貴重なご意見を頂きました。

平成 30 年度は 11 人のメンバーで、月 1 回のミーティングをはじめ太田南コミュニティセンターとの共同企画など、出来る範囲で少しずつ活動してまいりました。この活動が、地域の皆様に少しでもお役に立てれば幸いに思っております。

なお、当研究会は、平成 30 年度より太田南地区コミュニティ協議会の登録団体になりました。これにより、円滑な活動が行えるようになりました。感謝申し上げます。

また、資料を編集するに当たってご協力をいただきました皆様に感謝いたします。

太田郷土史誌研究会会長 大住教夫

## 目次

<b>第Ⅰ編 活動編</b> .....	3
1. 平成30年度のあゆみ.....	4
2. 年度計画.....	5
(1) 活動事業名.....	5
(2) 活動計画.....	5
(3) 予算.....	5
3. 資料収集.....	6
(1) 「天保元年寅年讃州太田村狸の怪談」(『読み下し聞くままの記百七十話』より).....	6
(2) 収集写真.....	9
(3) 宮脇雅彦氏提供の収集資料 その3(平成29年4月収集).....	10
4. センター講座「太田南の昔を探ろう」.....	13
5. 太田南小学校道徳“水にまつわる授業”への協力(水不足についての座談会).....	13
6. 『太田南の昔ばなし第二集』の編集(8月).....	16
7. 香川県埋蔵文化財センターでの研修.....	17
8. 平成30年度太田南文化祭 平成30年10月27日(土)・28日(日).....	18
9. 平成30年度「史跡と出水めぐり」ウォーク.....	19
10. センター講座「第2回 出水を語る会」(郷土史誌研究会・コミセン講座共催).....	20
<b>第Ⅱ編 調査研究編</b> .....	22
1. 明治時代の太田村～宮脇光次氏の残した資料から～.....	23
2. 出水調査.....	33

# 第 I 編 活動編

## 1. 平成 30 年度のあゆみ

### 平成 30 年

4月 1日 (日)	4月度 出水調査
4月 6日 (金)	4月度 郷土史誌研究会
5月 6日 (日)	5月度 出水調査
5月 11日 (金)	5月度 郷土史誌研究会
6月 1日 (金)	6月度 郷土史誌研究会
6月 3日 (日)	6月度 出水調査
6月 17日 (日)	コミュニティセンターの清掃
7月 1日 (日)	7月度 出水調査
7月 13日 (金)	7月度 郷土史誌研究会
7月 27日 (金)	夏休みこども教室「太田南の昔を探ろう」
8月 3日 (金)	8月度 郷土史誌研究会
8月 5日 (日)	8月度 出水調査
8月 25日 (日)	太田南小学校研究発表授業のビデオ取り協力
9月 2日 (日)	9月度 出水調査
9月 5日 (水)	「太田南探訪MAP」200部を太田南小学校に寄贈
9月 7日 (金)	9月度 郷土史誌研究会
9月「太田南の昔ばなし第二集」3冊を、香川県立図書館、 高松市立図書館に寄贈。香南歴史民俗郷土館には1冊 提出。(同館所蔵の「馬鋏」の写真と説明書きを引用)	
10月 5日 (金)	10月度 郷土史誌研究会
10月 7日 (日)	10月度 出水調査
10月 11日 (木)	香川県埋蔵文化財センターでの研修
10月27日 (土)・28日 (日)	第34回太田南地区文化祭
11月 7日 (水)	11月度 出水調査
11月 9日 (金)	11月度 郷土史誌研究会
11月 10日 (土)	太田南の史跡と出水巡りウォーク
12月 7日 (金)	12月度 郷土史誌研究会
12月 8日 (土)	12月度 出水調査
12月 9日 (日)	第2回 「出水を語る会」
12月 17日 (月)	鹿ノ井出水のパンフレット1,500部増刷

### 平成 31 年

1月 6日 (日)	1月度 出水調査
1月 11日 (金)	1月度 郷土史誌研究会
2月 1日 (金)	2月度 郷土史誌研究会・新年会
2月 3日 (日)	2月度 出水調査
3月 1日 (金)	3月度 郷土史誌研究会
3月 3日 (日)	3月度 出水調査
3月 31日 (日)	活動報告書 No. 3 完成

## 2. 年度計画

### (1) 活動事業名

平成 30 年度 郷土史誌探訪事業

### (2) 活動計画

平成 30 年度は平成 29 年度に引き続き、太田南地区の歴史や自然を調査し、成果を地区の人々に広く伝える。

- 1) 地域に残っている写真や資料の収集、記録、保存（通年）
- 2) 夏休みこども教室（コミセン講座）への参加
- 3) 『太田南の昔ばなし第二集』の編集
- 4) 郷土史誌研究会メンバーの研修会
- 5) 太田南地区文化祭への参加
- 6) 太田南の史跡と出水巡りウォーク開催
- 7) 出水調査（継続）
- 8) 平成 30 年度 活動報告書作成

### (3) 予算

高松市交付金	258,000 円
地元負担金	16,000 円
昔ばなし販売代金	20,000 円
合 計	294,000 円

### 3. 資料収集

#### (1) 「天保元年寅年讃州太田村狸の怪談」(『読み下し聞くままの記百七十話』より)

『読み下し聞くままの記百七十話』(市民文化シリーズ 17、平成 5 年、編集発行は高松市図書館)は、高松藩家老 木村黙老著『聞くままの記』より讃岐国に係る記事を選んで、読み下し活字化したものである。

木村黙老(1774~1856)は安永 3 年に高松城下に生まれ、高松藩家老を長く務めた人物で、安政 3 年 83 歳で没した。文政 6 年 50 歳で国家老となり、高松藩の財政立て直しのため糖業の振興や坂出塩田の開発に力を尽くし、さらに、文政 3 年から 6 年間、江戸家老となり滝沢馬琴など多くの文化人と交流した。

多くの著作を残しているが、なかでも『聞くままの記』は文政 10 年(1827)から約 20 年にわたり執筆されたもので、正・続編合わせて百巻にも及ぶ大著である。地元讃岐に関する事柄はもちろん、江戸で見聞きした全国各地のさまざまな話題を記録し、江戸時代の世相を知るうえで格好の資料となっている。

今回紹介する「狸の怪談」は、「たぬきの里太田南」の原点ともなる話である。天保元年(1830)(今から 190 年ほど昔)ごろ、太田原辺りには多くのたぬきが棲んでおり、人を化かした話などもいくつかわさされていたのだろう。高松藩家老の耳に入るほどに。

#### 〔四十一〕 天保元年寅年讃州太田村狸の怪談

天保元年の年冬の頃とかや、讃州東香川郡太田村に真鍋某という庄屋ありて宅人の娘ありしに、其庄屋の下作〔下作とは其庄屋所持の田を耕作する農民をいう〕何某なる来りて主人にいう様、旦那の御合愛を此隣村の内座村なる遠藤氏へ〔遠藤氏は郷侍にて遠藤氏に嫁し給はずや先方にも至って懇望なりと承る。此事は僕が兄は右の遠藤氏の下作にて其宅の近隣に住し且暮其用を命ぜらるるによつて委しく聞く事を得たり。丹那も御領掌ならば僕兄弟にて媒約仕らんという、真鍋答て曰く此事誠ならば此上もなき憐憐なれども遠藤氏は豪富の大家にて身上不約合なり、且彼が隣近き久本氏〔久本氏も亦自家の郷侍にて頗る家資に富たり〕の女に婚を約して近き内に娶らんとし事のよし伝え聞けり。汝がいう所は謬ならんと詰しに、かの下作また答て曰くいかにも仰の如く久本氏は旧縁の故あるをもて止事を得ず一度は縁を結ばれしか共、素より右の女は姑の心に不叶〔不叶は叶はず〕久しからずして破談に及ばるべし。是非に承知し給はば宜しからんと勧めしかば、然らば親類縁者に相談して見んとて己が姪なる齊加何某といふ人己が甥なる真鍋何某といふ医者をはじめ多くの親類、頼み寺なる慈恩寺といふ僧に迄も談し合しに、遠藤は旧家の筋目といひ豪富にて主人の人物も宜しく実意正直成るうへは何一つ申所なし。領掌あつて然るべしと皆同意に對ししかば、然らばとて下作の者迄承知の返事をしたりしかば四五日経て下作又来りて申す様御答の趣先つ方迄申て候へばさらば来る何日の夜僕を人御供して先つ方の御宅迄来るべし。遠藤の御母儀主人も対面あるべしとの義なり。但しかの久本氏いまだ破談せざれば至つてひそかに供人をも俱せずして來給はん事を希はるよし兄なる者も申しつと告め。真鍋何某是を聞て左あらばいつ日の晩に遠藤がに行んと日をきわめ約しつづ其日の暮の頃より真鍋は下作と打連出てひそかに式更〔午後10時〕過る頃遠藤が宅に赴きければ、姑なる後室聲なる主人出て初対面の礼をのべ畢れば程なく盃をすすめ種々の肴を出してねんごろにねぎらい夜ふくる頃に帰りぬ。かかればいよいよ其約定りて親族にもあまねく告しらせしに、中には遠藤の近隣の者もありて、かかる時は遠藤の方にては聞も及はずいかかの事やらんなど疑ひいう人のありしかど夫れは、かの久本のかたを憚る故にひろく人に言はざるならん、正しく先の姑聲にもあいつる物をとて事とせずして居たり。又遠藤が行し後二日三日経て遠藤方より米四俵を馬二疋に駄して下作の許に來りて使の人のいう様その媒にて能き縁を求め侍るにいささかむくい候はんとて此米を參らす、猶事首尾能整いたらば厚き報を致すべけれどて米を贈りて帰りぬ、其後又此下作のあちこ

ちとゆきかいて此度は内々の事にて且とみの事なれば嫁の調度を初め衣服髪飾まで有にまかせて新たにとのへ梅るに及ばず、いついつの日遠藤の姑及び親族の内誰々まずそなたまで参りて祝儀をのべ夜に入新婦を迎へて家に帰らん、但し時刻は昼巳の時(午前10時)と約しぬ。扱其日になりて早くより下作は誓の許に行、辰の時(午前八時)の頃酒五升入の御樽おつと大きな鯛式頭一台とを持て来て、是は誓の君より内々歡びさこへまゐらすよしなり。かの久本氏へかくすよしあれば納聘等の儀は後日障無き時に贈りまいらせん、此樽君もこなたより入して持せ贈り奉らんは憚るすじの侍れば僕よりひそかに奉れとの事に候とてさし出し、とかくの内には巳の時に成侍ればとて誓君の方にも其心がまへとりどりに候と申す、さとはてはや巳の時にも成つ今がたと待つにさらに来らず、午の時(正午)も過ぎ末の時(午後二時)も過ぎぬ、持てども待てども何の音伝もなし、餘りに待ちこゝうじて下作を呼ていかがぞと問ふに下作もかく隙とり給ふべき事はなきに、いでや僕行きて伺ひ来らんとて出ぬ、其日も程なく暮て酉の時過る頃漸に帰りに誓君の方に量らざる障ぞ出来侍る、誓君の従弟なる何某殿の末の男子のことし七歳になり給へるが儀に身まかり給へり、依て其方さまの人々の周章大かたならず、さりともし斯迄に談合の整しを今になりて日を延さんも大に不弁なり、また小兒の事にもあれ伴の不幸はおし隠して今晩方々の祝儀を彩ばかりとのへ明日にいたりて病死のひろめをすべけれどと漸に評定きはまりしにより帰らまいりぬ、最早昔來給はん程もあるじというに附て座敷の塵埃を又新たに掃清め門口に入なと出して見れども見れども影も形も見へこず、はや亥の時(午後10時)にもなれど何の音伝もなし、再び下作にいかによと問へば斯願どり給う事はいぶかし僕また参りて見て来んというに此度は心ききたる若者式人を被下作につけて出しやり、あまりに疑しければとて甥なる真鍋何某といふ医師を見へかくれに附てやりつ、扱式人の若者は下作に伴へ行に太田村より四座へ行には道の程十七、八町にして中に香東川といふ此川のこなたの堤まで来りて下作式人の若者を愛に待せ置て我等はまつ先へ行て見んとて行しが、未だ三四町も行つらんと思ふ程に帰り来りて替々はやそこまで來給へり、爰にて待參らせて一所に帰らんという、式人の者はここまでも來つる物を直に誓君の方に行かんといいある所へ医師も追つき来て共に遠藤がに赴きしに、其宅凡そ二三町ばかりになりて下作の男急に足早になりて遠藤方へは行かずして其近隣の己が見なる者の家の内にいりぬ、伴ひし者其追つき来て其兄の家に行しに門戸は堅く戸ざして家内能寐入りぬと見へて寂として音なし、不思議や今まで下作の門の戸を明るとも無くして入りぬるはいかがぞとて戸をけわしく叩き音ないしかば内より下男の聲はれたる聲して誰ぞと問う、いや外の事にてもなし爰なる主の弟なる人只今此所へ來つれば夫れを尋るなりという、内より今宵は暮の程より誰も來らず早く戸ざして寐まりぬれど今迄人の來りたる事はなしという、然らばいよいよ不審なり先主に達せよ許要の事ありという、下作の兄なる人も其問答を洩聞きやがて起出て家の内に招き入れて夜ふけて來りし趣意を問うに、

\*真鍋家の屋敷の庭にタヌキの祠がある。\*

昔、屋敷の西側の藪を切り開いたところ古い祠が見つかり、通りかかった紀州の山伏が「これは靈驗あらたかな神の祠である。粗末にするでないぞ」と言って立ち去った。真鍋家ではその言葉を信じ、屋敷の庭に祠を移し大切にお守りしているという。(『太田南の昔ばなし 第一集』より)

この祠が、おそらくこの狸の怪談で語られた小祠であろう。この話は、この祠が造られた因縁を語る話となっているのである。

この狸は真鍋氏に大恥をかかせた狸ではあるが、その行動には長年住みついた巣を荒らされたというちゃんとした理由があり、また、下作に送った米四俵や真鍋家に送った酒樽や鯛などは本物だったなど、憎めないところもあり、まさに昔ばなしの「たぬきの首領アサト」に間違いのないと思われる。



此方三人の者は少しくいきまきてその弟の云々なる訳ありて今宵しも餘りに不都合にて不審なれば愛迄来つるなり、勿論下作の弟は此内へ入りしを目的あたり見たり、又そこにも此事には専ら拘られし由も弟のいいたり、戯れも事こそあれ弟は内に隠したるらん早く出せという、兄なる者汗を消し暫しあきれて固たりしがこは悪い寄らぬ事を承りつ弟なる者も此日ごろ斯る話はいきこへず、また遠藤氏の方にも何の噂も聞かざりき定めて聞きたがい給いたらんという、三人の者怒りを含みていかで去る眞あらん既に先つこる眞鍋の主人遠藤氏へ行って直に対談しけふも早くより遠藤氏より酒肴など贈らる、最もいたく秘すよしあれば汝達にも深く隠せるならん、又弟はこへ入ぬと見しは我々がひが目にて隣なる遠藤氏へ行しにやあらん、汝も此一件の遺累なり、いざや是より俱に遠藤氏へ行給へ、ともどもに事を私さんといふ、兄なる者いよいよ怪みて遠藤氏の主人は緊要の事ありて、二ヶ月以前より京都へ行って在宿ならず然るを対談し給ひし杯のたまうはいと心得がたし、去れ共我等も其名を出され且は弟の専ら事を取行しからは今更打捨ても置がたし、但し弟も是迄詞を言たる事無き者なり、是には何か子細あらん遠藤氏へ参らでは分りかたしと三人の者と打連て遠藤の許に至る、刻はもはや子の時（午前零時）過て家内静まり居たり、門に音ないて近隣の何某急に中べき事ありて参りぬと云入れぬれば暫くして客の間に客の長出で挨拶す、近隣の何某云々のよし物語りしかば家の長もあきれ果斯る事は夢にも覚ざる事なり、主人の嬢君は久本より堅く約して近き内に興入れ有らん事相違なし、又主人は先つ頃より京都へ出ましたれば眞鍋氏の來給ひて逢玉はん様なし、其上今日下作男の來りしを見ずいかなる事は思いも寄らざる事なりと答う、行し人々も互に目と目を見合せたる計にて詞なくそこそこ受答して立帰り前後の始末云々と告ぐ、かく往返の中に夜は空しく明たり眞鍋も大に驚て前夜より來り居し親類の手前面目を失へ急ぎ下作男を呼に遣はせしにきのうより出て家に在ずという、夫よりそこそこ手分して尋めれどもふつに見へず、一座の人々も手持なく己がまにまに出帰りぬ、夫より四日五日程経て下作男歸り來る、其妻早速にとらへて人して眞鍋の許へ知らせしかば大勢人を遣して引もて來り子細を推し其心対前後不揃顔色も常に替りて何とか物の怪の付たる如くなれば急ぎ僧山伏など請して加持祈祷せしに、下作口走り出て我は此眞鍋か田畑の竹藪の裏に年久しく住る狸なり、今年の春竹藪を斬荒して我栖あさまになりぬ、此狸いかて晴さんと思いて斯謀りて恥を見せしなり、又此下作男は中にも一はな立て竹木を斬つが類憎さに此男によりしなり、兼ては妖怪に化して眞鍋の娘をも引出し恥見せんと思いて門口迄覗い來つれど此家数世金毘羅神を信じ奉る故に神の冥助ありて此家の外へあざむき出す事不能口惜くも其辱にもたせり、若其後我小祠を造りて祭らざば猶々辛らき目見せんと罵り狂ひ伏しぬ、眞鍋もいとど腹立しく怒れども外にすべき業もなく止事を得ず小祠を造りて狸をいつき祭りしかば下作男の物の怪ものきつ替る事なく事治りぬ、其はじめ贈れる米より酒肴まで眞の物にていささか異なる事あらざりしとぞ。

△あらずじ▽天保元年の冬頃のこと、太田村に眞鍋という庄屋がおり一人娘がいた。ある日庄屋の下作（小作人）が来て円座村の遠藤氏が御息女を是非とも嫁に欲しいと言っている、その仲介をしてあげましようと言ふ。眞鍋は遠藤氏が裕福な郷士であることや、既に近くの久本氏の娘と婚約していると固辞するが、遠藤氏の姑や婿が懇望しているからと説得され、下作の仲介を了承する。後日の夜、下作の案内で遠藤宅を訪ね対面し酒肴のもてなしを受けた眞鍋はすっかり下作を信用し、嫁入りの日も決まる。しかし約束の日、遠藤氏の使いは来なかつた。夜更けてから、遠藤宅の様子を見に行つてみると、下作は途中で消えてしまふ。そこで遠藤宅を訪ねると、久本氏の娘が近く興入れする予定で、遠藤氏は京都に行つて留守と言われ、初めて下作に騙されていたことが分かる。眞鍋は大いに驚き、親類の手前面目を失つた。

四、五日後、下作を捕らえ問いただすと、下作は顔色無く物の怪に取りつかれた様子だつた。急いで山伏を招いて加持祈祷をすると、下作は次のように口走つた。「我は眞鍋の田畑の竹藪の裏に長く住み着いた狸である。ところが今年の春、この竹藪が切り払われて巢が荒らされてしまつた。此の恨みを晴らし、眞鍋に恥をかかせたかつた。この下作は一番に竹木を切つた奴である。金毘羅神の加護で娘を引き出すことができず残念だつた。もし、我を祠を造つて祀らなかつたら、今後もひどい目に合わせてやる」眞鍋は大層腹立たしかつたが、やむなく祠を造つて狸をいつき祀つた。

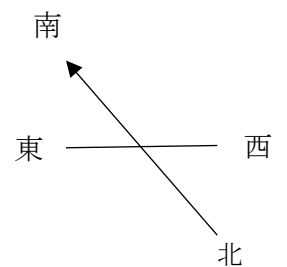
## (2) 収集写真

### 1. 光臨寺梵鐘応召記念写真

昭和16年12月8日開戦の太平洋戦争の1年後、光臨寺の梵鐘が応召されることになり、昭和17年12月26日に光臨寺のご門徒さんと記念写真が撮られている。光臨寺の佐伯住職さまから頂いた。西法寺の梵鐘も同時期に供出されている。



### 2. 出店道路拡張時に撮った写真（戦後まもなく）



(3) 宮脇雅彦氏提供の収集資料 その3 (平成29年4月収集)

昨年度で紹介できていなかった収集資料を紹介する。

1 形態

和紙を何枚か綴じて帳面にしたもの、4冊。

「異動地部別抜萃簿 乾」 (縦16.9cm 横12.3cm)

「異動地部別抜萃簿 坤」 (同上)

「許可済 変換地之價地租控簿 利」 (同上)

「地押筆数人別控帳 異動地筆数人別控帳」 (縦33cm 横12.3cm)

2 資料の内容

(1) 「異動地部別抜萃簿 乾」 (明治二十年第一月 香川郡太田村)

「異動地部別抜萃簿 坤」 (明治二十年第一月 香川郡太田村)

明治18年の『土地台帳』作成後に行われた調査の結果、何らかの異動(変化)があった土地を記した帳面。その異動を分類して一筆ごとに記載している。

「乾」 変換地の部……畑→宅地 畑→田 宅地→部分田 などの変換  
開墾地の部……草生地→部分田 田→内書井戸 などの変換  
地券合併の部……2つ以上の土地の合併

「坤」 畦畔変除の部  
畦畔新設の部  
川道跨分裂の部  
内書の部  
内番地変換の部  
岸高及木生地の部  
図面訂正の部  
畦道訂正の部  
誤謬の部



「乾」の最初のページ

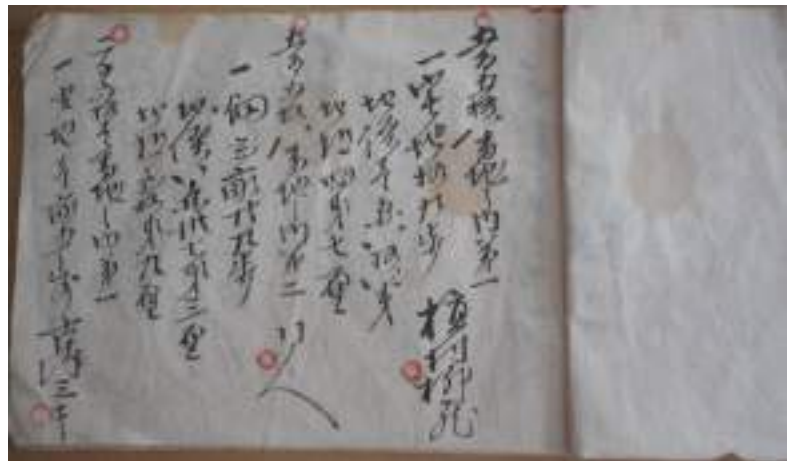
「坤」の最初のページ

昨年度に報告した資料と同様、これらの調査をもとに、『明治18年 土地台帳』（以下、『土地台帳』）が訂正され、『土地台帳』とともに作った地籍図も、この調査結果をもとに訂正されている。その訂正版が、宮脇家所蔵の地籍図である。

(2) 「許可済 変換地之價地租控簿 利」（香川郡太田村）

作成年は不明。

変換地の「地目・面積・地主の名・地価・地租」を記載。地租は地価の2.5%である。



「利」の最初のページ

最初の2件を紹介する。

558番地（第1と第2に分割された）

- 第1 宅地 19歩 地価1円88銭 地租4銭7厘 →1歩の地価=9銭9厘
- 第2 畑 1畝29歩 地価8円37銭3厘 地租20銭3厘 →1歩の地価=14銭2厘

2061番地（第1と第2に分割された）

- 第1 宅地 1畝5歩 地価7円15銭 地租17銭9厘 →1歩の地価=20銭4厘
- 第2 田 1畝27歩 地価12円39銭7厘 地租31銭 →1歩の地価=21銭7厘

\*面積当たりの地価を比較したが、どのように地価を決めたかは不明。

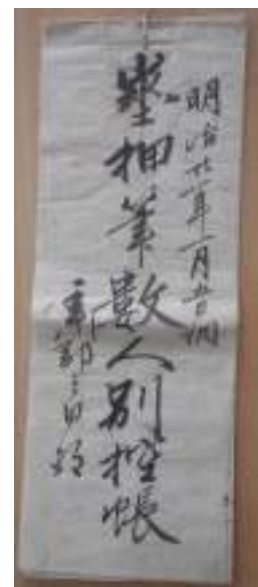
\*『土地台帳』では、2061番の第1と第2は上記の記載が訂正されているので、この帳簿は訂正用ではなく、明治18年に『土地台帳』を作った時の資料として作成されたものであろう。

(3) 「筆押筆数人別控帳 異動地筆数人別控帳」（明治廿一年一月五日調 香川郡太田村）

①「筆押筆数人別控帳」は太田村全ての土地（地番1～2866）を対象に、誰が何筆所有しているかを調べ、記載したものである。

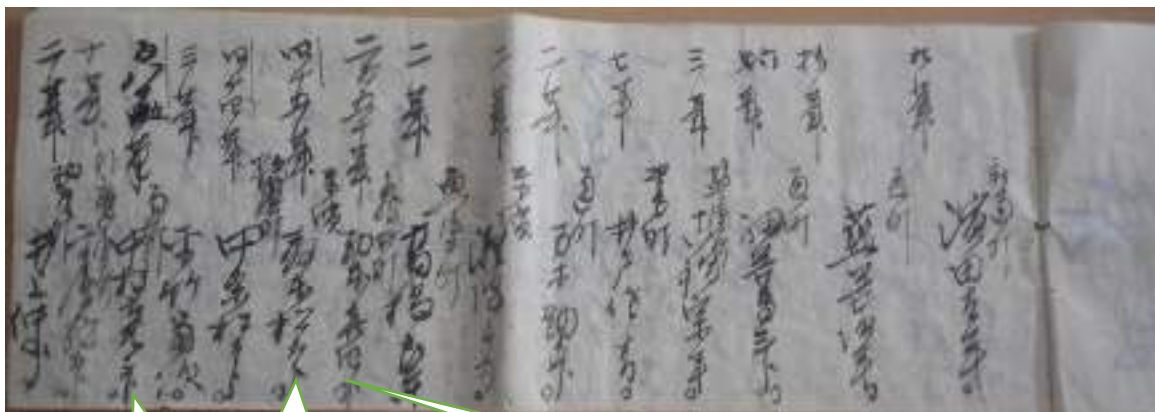
250筆を所有する亀井町の西本喜四郎を筆頭に、村外在住の地主が目立つ。以下、多い順に並べてみる。

- |   |      |     |       |
|---|------|-----|-------|
| 1 | 250筆 | 亀井町 | 西本喜四郎 |
| 2 | 185筆 | 通町  | 中村寛三郎 |
| 3 | 95筆  | 太田村 | 太田廣三郎 |
| 4 | 84筆  | 伏石村 | 山田作三郎 |



5	77筆	天神前	大久保恒彦
6	59筆	藤塚町	高畑信次郎
7	46筆	太田村	古沢重蔵
8	46筆	東浜	藤本松太郎
9	45筆	鶴屋町	中条松太郎
10	44筆	百相村	別所達次郎
11	42筆	亀井町	山地道太郎
12	41筆	太田村	河野依鶴
13	39筆	太田村	野崎繁次

多くの土地を所有する地主がいる一方で、1筆のみの地主が41人もいる。  
合計276人の地主が記されている。



中村寛三郎

藤本松太郎

西本喜四郎

② 「異動地筆数人別控帳」(明治廿一年一月 香川郡太田村)  
異動のあった土地の所有者と筆数を記載したもの。



#### 4. センター講座「太田南の昔を探ろう」

日時 7月27日(金) 10:00~12:00

場所 太田南コミュニティセンター和室

参加者 6名の小学生と保護者2名、中学生1名、一般1名

下の項目について説明した。

- ・上免出水
- ・太田池の歴史、生息する動植物
- ・道池地蔵
- ・戦時中の太田南の生活



#### 5. 太田南小学校道徳“水にまつわる授業”への協力(水不足についての座談会)

日時 平成30年8月26日 10時~11時 太田南コミュニティセンター(図書室)

出席者 太田南小学校4年6組担任 豊福佐由理教諭 大住教夫 藤村雅範 本健繁

(豊) こんにちは、今日は社会科の勉強として水についての学習をしたいと思います。

今日は3人の方にお話を伺います。よろしくお願ひいたします。

(大) 私は、太田郷土史誌研究会の会長をやっております大住と言います。

今日来ていただいているお二人のご紹介をします。

向かって左側が藤村雅範先生。元小学校校長、太田南地区コミュニティ協議会会長とか、色々な要職をなさっていて、現在はこの郷土史誌研究会でもなくてはならない存在です。

右側が松本健繁さん。地域のすべての活動に携わっており、前協議会会長、現在は高松市太田土地改良区の理事長をなさっています。

お二人とも太田についての知識が大変豊富で、私たちの知らないこともいっぱいご存知だと思うので、そのあたりのことを今日はお聞きしたいと思います。

(豊) 水不足の時にどのような様子だったのか? 困ったことなどは?

(大) 私は昭和14年の時とか古い話は知らないのですが、水不足の時どのような苦勞をしたのか? まず生活面からお話してください。

(藤) 水というのは、人間が生きてゆく上で絶対必要なものです。昔、満濃池を作った弘法大師も、水に困っている人々の苦しみを見て池を作ったのだと思う。私たちの所でも、その困った状況を見て内場池を作ったのだと思う。

私は昭和 14 年の大旱魃の時はまだ小さかったが、よく覚えている。水がなかったら、今日のご飯も炊けない。その水を隣のよく水の出る井戸へ行って“もらい水”して、ご飯を炊く。お風呂は“もらい湯”とって、お風呂を焚いている家へ行って「最後でいいから入れてもらえますか」と頼んでお相伴させてもらう。洗濯もめったにできない。田んぼの汚れた水でも汲んできて、それで洗濯する。それぐらい困る。米を研いでご飯を炊く、その水さえなくなった。それぐらい困った。

(大) 農業面ではどうでしたか？新しいところでは昭和 48 年はどうだったでしょうか？

(松) 昭和 14 年の時は、まだ 3 歳ぐらいだったので覚えていないが、年寄りからは色々話を聞いたことがある。

昭和 48 年は、高松も大いに水に困って、タンクに入れた水を車に積んで高松まで運んだ経験がある。その頃農家には井戸があったから、水はあった。ただ、井戸水も場所によってはかなけ水が出る。その場合は、直径 70~80 センチの素焼きの甕を買ってきて、下のはしに砂利を入れる。その上に蘇鉄の皮を敷いて、その上に砂を入れ、そこへ水を入れてきれいな水に濾した。それを使って飲み水やふろ水にした。また、つるべで井戸水を汲んでタンクに入れたりした経験もあります。

(大) 農業面はどうでしたか。

(松) 私の所は、鹿ノ井という大きな出水があつて恵まれていました。地元（東川地区）に鹿ノ井があつて、その下（しも）の出水に一番に掛かるところは水がある。それより下の伏石へんは水に困るから、いろいろな（水利）慣行があつた。太田の人が水を入れている時は、黙って堰を開けたら罪になるという慣行があつた。上（かみ）の人が入れ終わったら、下の人が入れる。

下では股という水門があつて、3 つも 4 つもにそこで分水していた。欲な人は自分の田へ早く水を入れようと水門を上げたりする。そういうことをささんように、水番とって水門のところで番をした。むしろを敷きカーバイドとってガスの明かりを持って行って、夜中じゅう番をした。そういうことを聞いています。

それから、昔は鹿ノ井川も川幅が広がったから、堰をするにも俵に砂を入れた土俵<sup>つちだら</sup>を並べて堰をした。土俵が流れないように後ろに杭を打って止めて、隙間は土や草できれいにふさいだ。下へ流すときは堰の土俵を除けて少し開ける。田の高いところへ入れる時は土俵を何段も積み重ねて水を入れた。

昔は泥の水路だったから、草も生えるし、魚もたくさんいた。戦争中や終戦後、私が小学校に行っていた頃は食糧難でおやつという物がなかったから、学校から帰って毎日じょうれんをさげて川（水路）に行つて、じゃこという小魚を取つて帰つて、鍋に砂糖と醤油を入れて煮たのをおかずにして麦ごはんを食べた。それがおやつ代わりだった。晩になると、「まだようけ残つていると思つたのに、ご飯が足らんよになつとる」とよく叱られたものです。

(大) 鹿ノ井出水は、小学校 3 年生がみんなで行くし、地域の人にも親しまれている出水ですが、現在農業にはどれぐらい使っているのですか？

(松) 今も使っています。（水利）慣行はなくなったが、内場ダムの幹線水路が来ていて、鹿ノ井用水と一緒に使われている。みんなのお金で内場ダムの水をもらつていて、水門できちんと決めて振り分けしている。受益の田んぼの広さによって水門の幅が違ふわけです。

(藤) 分けるのをちょっとでも間違えたら、裁判沙汰になるぐらいもめる。だから嚴重にす

る。お互いにこれは許しませんよと約束をして、判を押す。それぐらいせんといかん。それでも、こっそり違反する人がいる。鍬で頭を殴ろうかと思うほどのけんか沙汰が、現に起きたことがある。どうにか水がうまくみんなに回っていくようにと考えていたのだと思う。

(松) 今、出水も枯れるというか、出ない所ができています。これも昔は土の水路で、水が地下へ吸い込まれていたのが、今はコンクリートの水路になったので水は即流れてしまう。それと、前は田んぼで水が地下へしみていたのが、住宅になってしまったので、住宅に降った雨水も即流れてしまう。だからすぐ水が出て洪水になったり、いろいろな問題が起きている。そういうことで、水が地下へとしみていかないから出水も出んようになった。そういう弊害もたくさん出てきている。

(大) 私たち郷土史誌研究会でも、毎月出水の調査をしています。そのデータを見ると、水量そのものがほとんど上がっていないというのが現状です。

(松) 今はまだ、田んぼの水が地下へしみ込んでいるが、秋の稲刈りが終わったら、出水も枯れて水が出ないようになる。

(大) 南の出水はほとんど枯れてしましますね。下の方は、若干残っている。そういう流れがあって、まだあっちの（下の出水）は結構水が溜まっていますね。

(松) 昔は泳ぐのは川で、先輩に泳ぎをよく仕込まれた。鹿ノ井川で泳いでいると、川でも途中で広いところがあって出水があるし、下へ行くほど水の量も増えていった。

(藤) 今は三方をコンクリートで固めた水路になったが、前は土だった。そこに草が生える。これ幸いと草を抜いて横に置いて堰をする。すると、水のたまりもよくなる。前はそういうこともあった。

(大) 東川の方に“股”という地名がたくさんありますが、股というのは結局水路を分けた分岐点を言うわけですね。小学校ではそういう股のことは出ないと思うけれど、地域の場所として残っている。南にはない。東川とか、その北ばかりにそういう名前がある。それぞれ、水に係る名前でしょうね。

(藤) 股というと蛙股、柳股、上所股、三軒家股、立石股などがあり、それぞれの地域がその地名に誇りを持っていた。掛りという言葉があるが、掛りというのは共同体の意味だった。伏石掛りというのは、伏石の田んぼに水が来る家の人が集まって作った団体。

(松) 今の水利組合のことです。

(大) 今は、内場ダムができて水の心配もほとんどなくなった。内場ダムはいつできたのでしょうかね。

(藤) できたのは戦後だが、準備は相当前からしていた。昭和14年の大干ばつもあって、何とかせんといかんということで、できたのが内場ダム。苦労した農家の人、生活に困った人らが考えて考えてあげくの方策としてできた。

出水や太田池もそう。何故できたかという、水に困った人がいたから。蓮池の向こうに大きな野田池がある。此の辺では一番大きい。田んぼの真ん中に何で作らないといけなかったか？困った人がいたから。昔、松縄村の人々が水に困ったから。そうでなければ、自分の所にあんな大きな池を作るはずがない。『太田農協史』によると、松縄村の人、伏石村の人、今里村の人、上福岡村の人、そういう人たちが困ってどこかに池をつくらうとなり、松縄村の人たちが自分たちの田んぼを犠牲にして作った。池を作ることを池普請というが、関係の村々に材料や人夫などを割当てた。その代わり水を配ってもらう。それらのことを村々が集まって相談して決めた。その約束事を書き



記した文書が今に残っている。一札入れるという言葉があるが、その文書には関係者の名前がズラーと書かれている。こうして野田池ができた。今、邪魔だから野球場にでもするかとは、簡単にはできない。

(大) 野田池は、太田南小学校の生徒には直接の関係はないけれど、道池も同じような状況でできたのだと思います。

(藤) 我々の苦労の結果が、今のそういう方策につながってきているということを分かってほしい。

(松) 香川用水ができて、水はもう大丈夫だと言っていたが、高松の人口が増えて、また水が足りないと言われ出した。徳島県の吉野川の水を引くについては相当のお金がかかり、徳島県へお金を払って水を買っている。それも条件を付けられていて、ため池条例という条例ができていて勝手に池をつぶせない。いらないからつぶすといたら、徳島県がそれを許可しない。許可したら、自分の方に金が入らなくなるからやと思う。

(大) 聞いた話によると、三条池も水利組合に誰もいなくなった。池を返したいののだが返せない、下に田んぼもなくなったから池の必要がなくなった、ということだそうだ。

(松) 農家も減ってしまっている。太田地区でも、年々減っている。去年は1町歩ぐらい宅地化した。3~4年前までは(毎年)3町歩ぐらいの農地がなくなっている。航空写真で見ると、稲の植わっている田んぼが太田地区ではもうあまりない。農家を継ぐ跡継ぎもいなくなった。

(豊) ありがとうございます。おかげで、池のでき方や池を大事にしているわけも分かり、勉強になったと思います。どうもありがとうございました。

## 6. 『太田南の昔ばなし第二集』の編集 (8月)

平成29年4月、藤村氏より長年書き溜めた太田南に伝わる昔話30編余りを託され、平成29年度に第一集(たぬき編)を編纂した。

引き続き、出水を中心とした水に関する話を第二集(水編)として編纂した。

挿絵は第一集にひきつづき、宮脇麻有美氏にお願いした。

第二集(たぬき編)の印刷は、タムラ印刷にお願いし、平成30年8月に、初版500部(129,600円)が刷り上がった。

第二集の配布先:

太田南小学校、太田中学校  
香川県立図書館、高松市立図書館  
その他

一般販売: コミュニティセンターで  
100円/冊で販売



## 7. 香川県埋蔵文化財センターでの研修

日時 10月11日(木) 9:30~11:40

参加者 10名

9:00 太田南コミュニティセンター集合、出発

9:30 香川県埋蔵文化財センター到着

展示室の見学

専門員の丁寧な解説で、1時間余りの時間があったという間だった。常設展示では香川県の旧石器時代から江戸時代までの展示を見学。テーマ展では、「四国の彩り」展が開かれており、高松の上天神遺跡から出土した辰砂関係の資料など興味深かった。太田原高州遺跡出土のトンボ玉が展示されていて「どこで作られたの？」などの質問が出た。

施設見学

復元竪穴住居や、普段は見ることのできない出土土器の破片の接合作業などを見学した。細かく根気のいる作業に感心した。

11:15

休憩後、開法寺塔跡を見学し、そこから今は水田となっている国府跡の発掘現場を展望、1100年以上前に菅原道真が国司として赴任したころの国府に思いをはせた。あいにくの雨で、鼓岡神社の見学はできなかったのが残念だった。

11:40 研修終了



8. 平成 30 年度太田南文化祭 平成 30 年 10 月 27 日 (土)・28 日 (日)

太田南文化祭の展示の部に参加した。

- ・ 史跡と出水めぐりウォーク
- ・ 出水調査
- ・ 夏休み子ども講座「太田南の昔を探ろう」
- ・ 「太田南の昔ばなし第二集」の編集
- ・ 香川県埋蔵文化財センターでの研修などの活動について報告した。



## 9. 平成 30 年度「史跡と出水めぐり」ウォーク

- ① 日 時 平成 30 年 11 月 10 日 (土)
- ② コース 下図
- ③ 時 間 太田南コミュニティセンター出発 9:50  
同 到着 12:00
- ④ 参加者 一般 26名  
スタッフ 9名
- ⑤ 配布資料等 コース表、太田南探訪MAP、ゴンタの缶バッジ

コミセン → ①競馬場石碑 → ④上免出水 → ③さく井の石碑 → ⑮光臨寺 → → →  
へんろ石 へんろ石

⑯孝子甚兵衛の墓 → ⑩長池出水 → ⑪合子出水 → ⑭皿井新出水 → ⑫庄助洞出水 →

⑨太田天満宮 → ⑧前田家の長屋門 → ⑦道池地蔵 → ⑥延命地蔵 → コミセン(到着)



## 10. センター講座「第2回 出水を語る会」(郷土史誌研究会・コミセン講座共催)

### (1) テーマ : 出水調査結果と現状

平成29年度の「第1回 出水を語る会」で、太田南地区の出水の現状と未来について、香川大学新見名誉教授に講演頂いた。平成30年度は、その成果をもとに出水の1年の移り変わりを調査し記録することにした。調査には新見教授と香川大学の学生さんも参加され、4月から毎月第一日曜日の午前中に出水を自転車で回って調査した。今回、その調査結果を報告すると共に香川大学教育学部附属中学校で調査された上免出水の状況について同校小野先生にお話しいただいた。報告の後、新見教授の指導のもと自由な議論を行った。

(2) 日時 : 平成30年12月9日(土) 10:00~12:00

(3) 場所 : 太田南コミュニティセンター 2階 ホール

(4) 参加者 : 37名(男性22名、女性15名)

### (5) 発表概要

#### ①郷土史誌研究会発表

- 南の上免出水、中央の庄助洞出水、皿井出水は、冬場は涸れるが、初夏から秋頃までは豊富な湧水が見られる。
- 北部の大吉・小吉出水、毛田出水の水量はそれ程多くはないが、一年を通じて湧水が観測される。
- 東部の鹿ノ井出水も一年を通じて湧水が観測されたが、湧水量については、観測ポイントが限られていたため十分に把握できなかった。
- 湧水のある出水には、それぞれ小動物(フナ、ミズスマシ、ザリガニ、トビジョウなど)が生息しており貴重な存在になっていた。

#### ②附属中学校からの報告

- 身近な地域の教材を通して学んだ生徒が、自分たちの住む地域に愛着をもつようになる。そのような授業を目指して、上免出水の詳細な調査を生徒と共に行なった状況の報告があった。
- また、出水の保全をテーマに模擬高松市議会を授業で行い、生徒自分たちの力で地域を変えられるとの意識の向上に繋げるなど、今は用水としての使命を終えた出水の新たな価値(教育資源)に繋がる道を教えていただいた。

#### ③香川大学新見先生と軒原さん

- 新見先生からは、郷土史誌研究会が発表した調査結果を地質構造から学術的に説明されるとともに、出水、池を中心とした水縁空間という概念を説明いただいた。地域コミュニティにとって切っても切れない水との係わりを生活の質の面から捉えようとする試みであり、出水の教育資源的価値とともに、郷土史誌研究会の今後の活動計画に大いに参考になるものであった。
- 軒原さんからは、出水調査に参加することにより人として成長することができたとの報告があった。郷土史誌研究会のメンバーもそうであるが、出水との係わりのなかで、世代を超えて成長できる何かがあることを気付かせてくれた。

### (6) 皆さんからのご意見など

- 自分たちが住んでいる近くにかつて出水(淀出水)があったと聞いている。出水について興味がわいてきた。
- 鹿ノ井出水が少し汚れてきているようだけど、もっときれいにならないかな。

- 香川用水が鹿ノ井出水の近くを通る工事があったとき、出水を守るために、香川用水と出水の水が混じらないようにした。また、出水には生活排水が入らないような措置をとっている。
- 太田在住 15 年で、散歩するための地域情報収集のため参加しました。今までは鹿ノ井しか知りませんでした。春は写真を撮りに行きます。
- 上免出水に興味があつて参加させていただきました。先生の熱心な研究に感心しました。これから先のいつか、上免出水が昔のようなきれいな澄んだ水で溢れたらいいなと思う。
- 長池出水は 50 年以上前は絶えず水が流れ、洗い物やスイカを冷やしていた。
- 上免出水より上流の井戸が高松砂漠の時も涸れなかった。
- かつては上免出水にカワウソいたと聞いた。
- 払井出水は以前は冬水が出なかったのに、水田が減ったのに最近は冬にも水が出るようになった。
- 皿井出水の近隣で井戸水を使っている家が数軒あり、皿井公園を作るとき地下水脈を変えないように配慮した。
- 出水の水を渇水時に利用できないか？今は雑用水としてしか使えない。長い時間をかけてきれいにしていくほかない。
- 地域の人たちが協力して水を大切にすることが大事。



## 第Ⅱ編 調査研究編

# 1. 明治時代の太田村～宮脇光次氏の残した資料から～

## 1 はじめに

安藤みどり

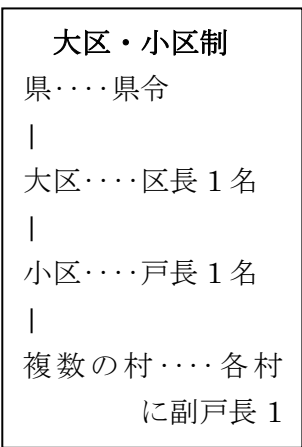
宮脇光次氏（以下、光次氏）は、明治期に村のリーダーとして活躍した人物で、多くの資料を残している。その中の、地押調査や出水水配に係る資料については、すでに紹介したが、それ以外の資料にも大変貴重なものが多い。そこで今回は、それらの資料を基に光次氏の業績を追いながら明治期の太田村の移り変りを考察してみたい。

## 2 太田村の成立まで～明治期の地方政治～

### (1) 地方政治の移り変り

明治 23 年（1890）、太田村・松縄村・伏石村・今里村・福岡上村が合併して新“太田村”となるまで、地方政治はめまぐるしく変化した。

明治政府が導入した「八十八区制」や「大区・小区制」は、それまでの郡・町村を無視して、国政事務遂行のための上意下達の行政機関であった。しかし、徴兵令や地租改正・学校の設立など、どれ一つとっても旧来の郡や町村、住民の意思を無視して行えるものではなかった。そこで明治政府はやむなく、住民の協力を得るために、旧来の寄り合い制に変わる公選の町村会や県会の開設と戸長の公選制を認めることとなった。



明治 11 年（1878）「郡区町村編成法」が公布され、大区・小区制を廃止、旧来の郡と町村が行政区として復活した。町村の自治機能が復活し、町村ごとにおかれた戸長は公選制となり、町村協議費の審議権を持つ町村会の設立も認められた。（但し、郡長の公選は認めず。）

しかし政府は、明治 17 年（1884）戸長を県令が選任する官選制とし、平均 5 町村、戸数 500 戸を標準に 1 戸長をおくこと（連合戸長役場）を布達した。

これは、松方デフレの進行と自由民権運動の激化の中で、町村戸長と住民とを結びつけていた連帯意識にくさびを打ち込み、戸長を上からの行政執行官とすることを狙ったものである。

### 地方政治の変遷

- 明治 4 年 第 1 次香川県
- 5 年 「区画編成法」公布  
数カ村を 1 区とし、香川県を 88 区に分ける。（八十八区制）
- 6 年 名東県に合併
- 7 年 大区・小区制の実施  
太田村は 18 大区 2 小区
- 8 年 第 2 次香川県
- 9 年 太田村は 1 大区 4 小区  
愛媛県に合併  
太田村は 4 大区 4 小区
- 11 年 大区小区制廃止「郡区町村編成法」公布  
香川郡太田村となる
- 17 年 太田村・松縄村・伏石村・今里村・福岡上村が町村の連合体をつくる。松縄村外四カ村と称す。
- 21 年 「市制・町村制」公布  
第 3 次香川県
- 23 年 町村制の実施。5 村が合併して太田村となる。



米と生糸の値段 (『図説日本史通覧』)



このような経過を経て、一旦は「香川郡太田村」となった太田村も、松縄村・伏石村・今里村・福岡上村と共に連合体を作り「松縄村外四か村」と称すこととなった。

連合戸長役場は松縄村に置かれ、官選戸長は瀧豊三郎であった。村にはそれぞれ村総代人（注1）がおかれ日常の事務をつかさどり、村会も設置された。しかし、連合戸長役場の管轄区域が5か村という広域なものになった以上、従来の“むら”の独自性が失われていくことは目に見えており、それぞれの村の村会よりも連合村会に実質的機能が移っていった。これは、自治権を制限し中央集権的地方行政制度を確立していく過渡期であって、次の町村制への準備となるものである。

（注1）明治18年『土地基帳』によると太田村総代は太田廣三郎と松本二平である。

- (2) 光次氏、松縄村外四か村の連合会の議員となる  
最初に紹介する資料は、明治18年(1885)・19年(1886)のものである。

資料① 明治18年9月

愛媛県香川郡松縄村外四か村戸長役場より  
光次氏が太田村会議員の補欠選挙に当選した  
との通知

資料② 明治19年4月23日

香川郡松縄村外四か村戸長役場より  
光次氏が、松縄村外四か村聯合会の議員に  
当選したとの通知

資料③ 明治19年4月24日

松縄村外四か村戸長瀧豊三郎より  
五か村連合会を26日に伏石村で開くので出席  
するようにとの通知

資料②



光次氏は、太田村の村会議員、次いで五か村連合会の議員に選ばれた。選挙できるのは満25歳以上の地租あるいは直接国税を納める男子という制限されたものであったが、とりあえずは村民の代表である。(小作人は除外) 明治23年に新太田村となるまで連合会議員を勤めたようだ。

資料⑤

議会の権限は制限されていたが、一番大きな仕事は  
予算の審議である。  
予算会議の資料が3点残っている。

資料④ 甲號議案

明治18年度松縄村外四ヶ村勸業費支出収入予算

資料⑤ 甲號議案

明治19年度松縄村外四ヶ村費支出収入予算

資料⑥ 乙號議案

松縄村外四ヶ村小学校創置伺金額支出収入予算



① 明治 19 年度の予算

明治 19 年度の支出額と収入額 (資料⑤)

当時は戸長や村会議員は無給の名誉職とされるなど、人件費は低く抑えられていた。それでも政府から地租改正事業などの多くの事務作業が課せられ、村では戸長役場費など多くの経費が必要だった。

(注 2)

明治 19 年度の「松縄村外四ヶ村」の予算は 622 円 16 銭 9 厘、その金額は 5 か村の住民に地価割と戸別割で課税された。地租 (国税) の上にさらに町村税が課せられたわけ

で、土地を持たない住民 (小作人) も戸別割の税は払わなければならなかった。1 戸当たり 37 銭余の負担は大きかっただろう。

光次氏のメモ書きによると「松縄村外四ヶ村」の戸数は 610 戸である。これは「独立自治に耐えうる資力のある広域の町村」を作るという政府の方針に合うもので、香川県では、この連合戸長役場管轄区域がそのまま新町村となったものが多い。高松市と小豆島を除いた新町村の平均戸数は 717 戸、人口 3513 人で、戸数 500~700 戸の町村が 38% を占めていた。新“太田村”となる松縄村外四か村は香川県の平均的な規模であった。

(注 2) 戸長役場費の中で 107 円 7 銭を占める「用需費」には界紙 (罫紙)・半紙・美濃紙・国税取立用紙・領収書、筆墨料・朱肉代などが列挙されており、事務仕事の多さがうかがえる。

また、戸長役場費の中の「諸雇給」(157 円 55 銭) では、筆工 1 名 1 日 7 銭 (月給に直すと 2 円 10 銭ぐらい) で、365 日分 25 円 55 銭、小使を 5 人雇っており、月給 2 円 50 銭の者が 2 人、2 円の者が 3 人で、年間 132 円が計上されている。戸長役場では常時 6 人が雇用されていたようだ。

② 明治 19 年度の教育費

明治 19 年度予算の支出項目を見ると、教育費が無いことに気が付く。実は教育費は別枠で資料⑥の「乙號議案」に予算が示されている。

十九年度松縄村外四ヶ村費支出収入豫算		
一 金六百貳拾貳円拾六銭九厘	支出額	
内		
一金三百六拾八円七拾七銭	戸長役場費	
一金貳拾貳円七拾貳銭五厘	会議費	
一金五拾円九拾六銭	警備費	
一金百二拾三円九拾六銭四厘	勸業費	
一金貳拾貳円七拾五銭	衛生費	
一金三拾三円	予備費	
金六百貳拾貳円拾六銭	収入額	
内		
金三百七拾三円三拾銭壹厘	地価割	
但 地価壹円二付壹厘壹毛四七		
金貳百四拾八円八拾六銭八厘	戸別割	
但 壹戸二付三拾七銭一厘四毛三		

教育費の支出収入予算（資料⑥）

資料⑥

松縄村外四ヶ村小学校創置伺金額支出収入予算	一金九百七拾円四錢五厘	内	教育費支出額
	一金九百七拾円四錢五厘	内	教育費
	一金九百七拾円四錢五厘	内	教育費収入額
	金六百三拾四円拾七錢六厘	地価割	
	地価金一円二付一厘九毛四糸八六ヨ宛	戸別割	
	金貳百七拾壹円七拾八錢九厘	戸別割	
	壹戸ニ付四拾四錢五厘五毛五糸五宛		
	金六拾四円八錢	授業料	
	(一ヶ月)		
初等科生徒一人ニ付二錢宛			
中等科生徒一人ニ付四錢宛			



資料⑥の「松縄村外四ヶ村小学校創置伺金額支出収入予算」を見ると、5か村で新しく小学校を創置しようとしていて、そのための予算を審議したようである。

教育費として970円4錢5厘を計上しており、これは「松縄村外四ヶ村費」の622円16錢9厘よりも多い。

明治19年に公布された小学校令によれば、小学校の経費は「主に授業料と寄付金で賄い、不足の時は町村会の議決によって町村費から補充することができる」と定められていた。しかし、寄付金は少なく、授業料も高くすることはできず、現実には町村費が経費の中心だった。

「松縄村外四ヶ村」も例外ではなく、教育費約970円の約93%の約905円を地価割・戸別割として村民全てから徴収しようとしている。土地を持たない小作人にもさらなる戸別割44錢余りの負担がかかってくるわけである。授業料の一ヶ月初等科2錢と中等科4錢は、明治21年の県下の尋常小学校での平均7錢1厘と比べると大分低く抑えられている。

但し、光次氏のメモ書きによると教育費は「七百八十三円八十二錢決ス」とあり、地価割が「四百二十円八十一錢二厘」、戸別割が「百七十六円七十四錢八厘」、授業料が「百九十四円七十六錢」で、初等科生徒の一か月授業料は四錢、中等科生徒の授業料は七錢に、それぞれ訂正されている。この訂正通りなら、教育費は減額されたうえに、授業料は値上げされ、結局地主の負担が減らされただけとなる。これは、連合会の議員がほとんど全員地主であったためだろう。

乙號議案参照のページの支出の項目を見ると、970円4錢5厘の内訳は「三石小学校費」が616円4錢（注3）、「三石小学校第一香河分校費」が189円56錢、「三石小学校第三松里分校費」が164円43錢5厘で、3つの学校が創置される予定でそれぞれ予算が当てられている。（乙號議案参照は、金額の訂正無し）

それまで松縄村外四か村には、三石、平石、松縄、福岡、香河の5つの小学校があった。『太田百年』によると、明治20年「三石、平石、松縄、福岡の4小学校を合併して

伏石尋常小学校及び今里簡易小学校とし、香河小学校は太田簡易小学校となり 3 校となる。」とあり、予算案にある三石小学校が伏石尋常小学校に、三石小学校第三松里分校が今里簡易小学校に、三石小学校第一香河分校が太田簡易小学校となって統合されたのだろう。

当時、尋常小学校は 4 年制で、簡易小学校（簡易科）は 3 年制だった。

（注 3）三石小学校の学校長は月俸給が 12 円（年俸 144 円）、  
 教員は月俸 7 円の者が 1 名、5 円の者が 1 名  
 教員補は月俸 4 円が 1 名、3 円が 2 名、2 円 50 銭が 1 名  
 教員数は、合計 7 名。他に裁務係、雑務係、小使い各 1 名

### （3）新“太田村”の誕生

明治 21 年（1888）市制・町村制が公布され、明治 23 年（1890）松縄村外四か村が合併して“太田村”となる。（注 4）

新町村の名称については、「大町村ニ小町村ヲ合併スルトキハ其大町村ノ名称ヲ以テ新町村ノ名称トナシ……」、さらに「歴史上著名ノ名称ハ可成保存」するようにとの指示があった。“太田村”の場合は、合併五か村の内最大村であった太田村の名称を用いたものである。

合併の後、村会議員の選挙（選挙権は満 25 歳以上の男子で、地租または直接国税 2 円以上納める者）があったが、光次氏は新“太田村”の議員にはなっていない。しかし、衛生組長を勤めるなど、村政にはかかわっていたようである。

明治元年の石高	
太田村	1,277 石 1 斗 7 升 3 合
伏石村	956 石 1 斗 2 升 9 合
今里村	325 石 1 斗 6 升 4 合
福岡村	591 石 2 斗 4 升 8 合
松縄村	649 石 4 斗 5 升 7 合
計	3,799 石 1 斗 7 升 1 合
合併当時の新太田村	戸数 853 戸
	人口 4930 人
	『太田農協史』より

### 資料⑦ 明治 26 年（1893）9 月 9 日

香川郡太田村長乃村恒三郎より、衛生組長宮脇光次への手紙

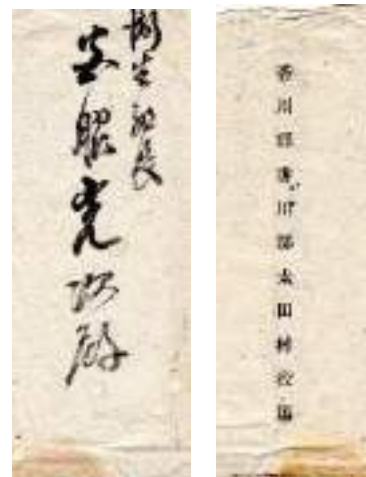
「高松市、山田郡湊元村で赤痢患者が発生したことを伝えた上で、組内各戸に予防法を指示し、患者発生の際は速やかに届け出て消毒予防をして即撲滅するように要請したもの」

赤痢は 6 大伝染病（コレラ・腸チフス・赤痢・ジフテリア・発疹チフス）の一つで、1890 年代全国的に大流行した。九州から始まった流行は、1894 年頃西日本全体に広がり、1897 年頃関東で大流行した。志賀潔が赤痢菌を発見したのは、1897 年（明治 30）のことである。

衛生組長であった光次氏は大変な重責を担ったと言える。

（注 4）明治 21 年の 12 月に愛媛県から分離して香川県が設置されたため、香川県での市制町村制の実施は少し遅れて明治 23 年（1890）である。

資料⑦手紙の封筒



### 3 地租改正事業へのかかわり

光次氏が残した土地に係る資料—「明治十九年変換ニ際シ地券預り帳」や「明治廿年地押取調簿」「明治廿年異動地部別抜粋簿」「明治廿一年地押筆数人別控帳」「明治廿一年異動地筆数人別控帳」など—は、明治18年の『土地基帳』作成以後の変更を調べ報告するために作成されたものである。

明治19年(1886)、政府は地租改正以後に生じた地目変換、無願開墾地、無届地、落地など帳簿図面と実地の食い違いを調査是正する目的で、全国的に地押調査を行った。太田村でも村総代を中心に、光次氏も参加して地目変換や地主の変更を一筆ごとに調べていったことが分かる。それにしても、地主の変更の多さには、太田村の人たちも驚きかつ嘆いたのではないだろうか。松方デフレの影響が大きかったことが分かる。

実は、地租改正事業の結果、地租改正前と後での地租(負担)を比較すると、香川県の場合は5%程度も増加していた。これは地価が高く算定されたためで、県下の地主は大いに不満を抱いていた。そこで地主たちは、今回の調査で高すぎる地価が是正されるのではないかと期待をしていたのだが、明治22年8月26日、地価特別修正法が公布され、幾分不均衡が是正され、地租が軽減された。

修正率は各府県ごとに異なり、香川県の場合は従来の地価に対して、田は90.33%、畑は90.31%に修正された。

その通知が3日後の8月29日に太田村に届いている。(松縄村外四か村の戸長役場にきた通知の写し)

#### 資料⑧

#### 資料⑧ 明治22年(1889)8月29日

##### 香川県よりの通知

田 168町4反7畝3歩

現在地価 104471円39銭

現在地租 2611円99銭7厘

修正地価 94375円42銭

修正地租 2359円38銭6厘

畑 7町3反9畝4歩

現在地価 2518円23銭6厘

現在地租 62円97銭

修正地価 2274円87銭

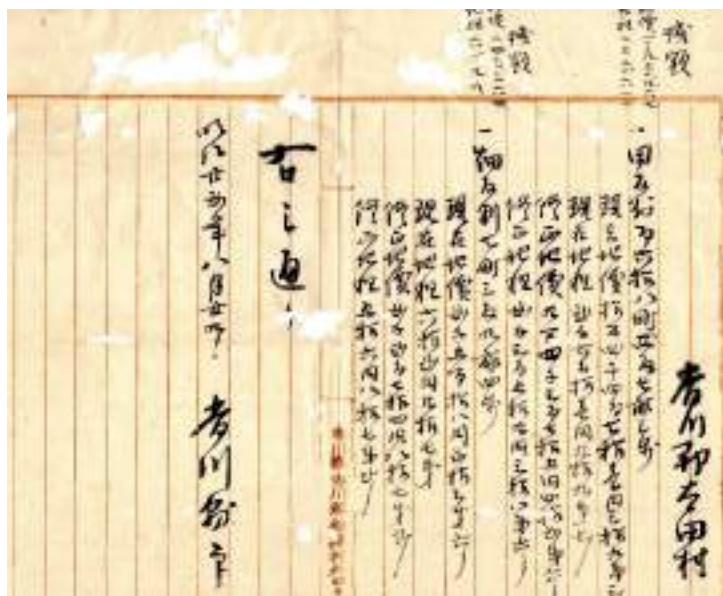
修正地租 56円87銭

\*地租は地価の2.5%

田は90.33%、畑は90.31%に減額されている。

この資料から、当時の太田村の耕地面積と1反当たりの平均地価が分かる。修正地価で計算すると、田は1反当たり約56円、畑は1反当たり約30円74銭である。香川県の地価を57円76銭8厘とすると(『香川県史』近代1)、平均並みかやや低い地価といえる。

ただ、この修正では不十分で、他府県に比べまだまだ香川県の地価が高すぎるとして、この後も地主たちの地価減額請求運動は続いた。



### 3 出水関係の資料

出水関係の資料が3点残っている。

#### (1) 鹿ノ井出水浚いをめぐって

資料⑨ 鹿ノ井出水浚之義二付御届（明治25年6月9日付）（写し）

＜太田村大字伏石の寒川忠五郎や山田作三郎ら10人から、太田村長乃村恒三郎へ出されたもの＞

「鹿ノ井出水浚えを慣行により5月19日に執行する旨を届け出ていたが、立会の大字太田・下多肥などの都合が悪く延び延びになっていた。時期を外しては損害をこうむることになるので来る6月15日に執行する。ただし、太田・下多肥での差支えの有無にかかわらず執行するので、その趣を関係村に知らせておいてほしい。」

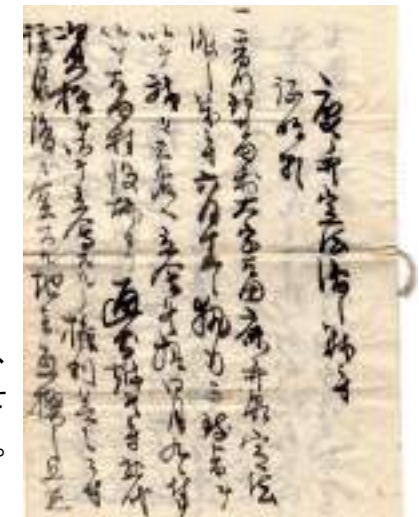


資料⑨

資料⑩ 鹿ノ井定法浚之戟二付証明願（明治25年6月17日付）

＜太田村大字太田の串田又平・森為次郎・宮脇光次の連名で、太田村長乃村恒三郎へ出されたもの＞

「鹿ノ井出水定法浚について、6月15日に執行するので、我々3名に立会うよう同月9日付けで太田村役場より通知があった。そこで、立会の資格を持つ出水惣代を選ぶ選挙をすることを11日付け書面で回答した。ところが、14日午後10時ごろ伏石水掛の者が来て明日立会うようにと云った。惣代選挙をするからと主張しておいたのに、その選挙の最中、則ち15日に浚えに着手した。直ぐに役場に通報して止めさせてもらおうとしたが、終に太田の立会無しに浚えを執行した。その事を証明してほしい。」



資料⑩

それぞれの主張を要約したが、鹿ノ井出水をめぐっては、江戸時代に厳しい水利慣行（定用水浚）ができてからも争いが絶えなかったようである。明治25年（1892）は干ばつの年ではなかったが、この結末がどうなったかの資料は残ってない。

資料⑪

#### (2) 出水水配の選出

もう一つの資料は出水の水配の選出に関するものである。

資料⑪ 皿井外二ヶ出水水配係ノ件ニ付契約証（明治卅九年六月）

この資料では「皿井外二ヶ出水」を、皿井・庄助・竿出水と明記している。現在、“竿”という出水は見当たらず、昨年度の「明治二十位年大字太田皿井外三出水費取立簿」の報告の時にはこれらの出水を“皿井・庄助洞・長池・合子出水”と推測した。実は、江戸時代末の「高松藩領絵図」には



庄助出水の東側に竿出水が描かれていた。ここでは、竿出水が現在の長池出水であると考えておく。

契約証によると、皿井、庄助、竿出水の水配担当者は、明治39年（1906）6月11日改選され、高点者が前田嘉平・前田岩太郎、次点者が前田増吉・大野伊八郎であった。高点者が明治39年6月11日から1年間水配係を担当し、次点者が次の1年間水配を担当することとし、高点者から次点者への関係書類や帳簿等の引継ぎをきちんとすること、この期間に限り水配の権利を執行することなどを約している。

これらから、水配の仕事の重要性、権限の大きかったことなどがうかがえる。水配の選挙は、該当出水水掛の田の所有者である地主の互選で、実際に耕作している小作人には権利がなかった。

この契約の立会人は前田桑治、宮脇安太郎、前田八重吉、宮脇光次、前田嘉市、前田林五郎で、契約書は宮脇光次が保管した。いずれも皿井や東分在住の主だった人物達である。

#### 4 日露戦争と軍事郵便

光次氏の残した資料の中に、29通の日露戦争中戦地から送られてきた軍事郵便（手紙）があった。100年以上前の手紙である。

知っての通り、旅順攻撃での第11師団の被害は大きく、香川県出征軍人1万8176名中戦死・戦病死者2346名にのぼり、これは出征軍人の12.9%、およそ8人に1人の割合であった。

太田村からも多くの若者が、異国の地へと出征していった。『讃岐香川郡志』によると太田村の出征軍人は138人、内戦死者は20人（16人が旅順攻撃中に戦死、4人は病院や自宅で死亡）、実に7人に1人が帰ってこなかった。

この未曾有の事態に兵士や村人はどのように対処したのだろうか。其の一つが軍事郵便である。

軍事郵便は戦地にいる兵士と故郷をつなぐ唯一の手段で、日露戦争中の軍事郵便は、内地と戦地と合わせて4億6千万通にものぼったという。

原則として戦地の兵士からは無料で、内地から兵士あては正規料金が必要だった。戦地では野戦郵便局が集配し、郵便物の表面には朱で「軍事郵便」と記した。手紙の内容については「検閲」があり、検閲済みの印が押された。

残された手紙は粗末な封筒に入り、墨で書かれており、「軍事郵便」と墨で書いたものもあった。最初に疑問に思ったのは、なぜ光次氏に村出身の兵士から多数の手紙が送られたのかということだった。これは、手紙を読んでいくうちに了解できた。実は光次氏は前線にいる兵士に慰問として、たびたび手紙や新聞—香川新報や讃岐実業新聞—などを送って

##### 日露戦争関係年表

明治37年（1904）

2月 日露戦争勃発

4月 第11師団に動員令。

6月 第1師団と共に第3軍を編成。

7月 旅順攻撃開始

明治38年

1月 旅順要塞開城 155日間の包囲戦終結。

第11師団、第3軍から離れ鴨緑江軍に編入

2～3月 奉天会戦に参加

5月 日本海海戦

9月5日 ポーツマス講和条約調印

9月16日 休戦命令

明治39年

1月12日 第11師団司令部多度津港凱旋

\*鴨緑江（おうりょくこう）は中国と北朝鮮の  
国境の川

おり、そのお礼や近況報告の軍事郵便が届いていたのである。このような例は他村にもあり、遠く前線で戦う村の若者たちは大層喜んで読んだことだろう。

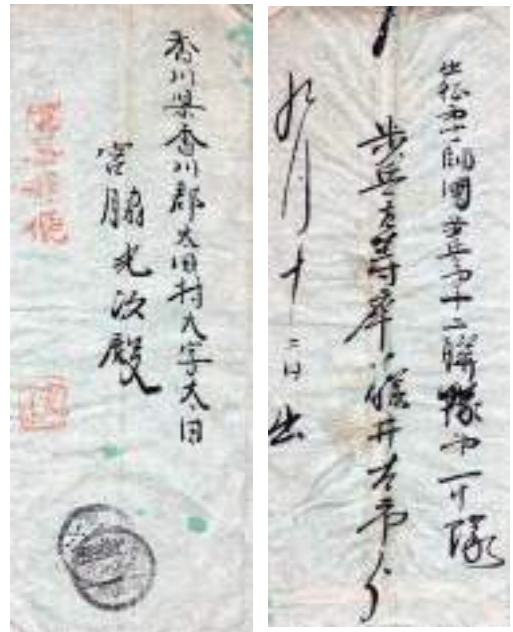
資料⑫ 現在残っている手紙の差出人（注5）

- 松本茂太郎（出征第11師団第1糧食縦列第3小隊）7通
- 藤井太市郎（第11師団歩兵第12連隊第1中隊歩兵一等卒）6通
- 前田和平（出征后備歩兵第11旅団歩兵第12連隊第2中隊）4通
- 大西吉太郎（出征后備歩兵第11旅団歩兵第43連隊第6中隊歩兵軍曹）5通
- 前田森次（出征第11師団歩兵第12連隊第7中隊第3小隊）3通
- 森 早次（出征第11師団野戦砲兵第11連隊第6中隊）2通
- 宮脇多助（出征第14師団歩兵第54連第10中隊軍曹）1通
- 若松茂十郎（大日本帝国軍船千代田船機関部）1通

手紙は、明治38年1月1日付のものが一番早く、明治39年1月16日付が最後。旅順攻撃が終わってから、凱旋帰国までの間となる。それ以前の手紙は失われている。

内容を一部紹介する。

藤井太市郎の手紙（封筒）



**松本茂太郎**  
 （明治38年5月19日）  
 拝啓：幸、無事従軍罷在候間：  
 度々新聞紙お送り下され、有がたく御  
 礼申上候。我師団ハ營盤より東方ニ向  
 かつて前進致居候故左様御承知あれ  
 ……  
 （明治38年9月12日）  
 ……小生事も無事従軍罷在候間何  
 卒御休念下さるべく候。本日十一日  
 ニ香川新報御送り下され直ニ拝読  
 仕り候故御礼申上候。講和相成候  
 故、近日ニハ凱旅命司有カト勲勇テ  
 従軍仕り候。……

**藤井太市郎**  
 （明治38年10月31日）  
 ……隊内の噂さには来月九日に当  
 地を發足撫順後方奉天付近迄帰途  
 に就き三十九年一月六日頃に当師  
 団は凱旋の途に就く予定に有之候  
 間、あらかじめ御一報：……当地は九  
 月中旬より降霜致し十月中旬より  
 降雪致し、余程寒気が相成候。然し  
 其防寒用被服支給相成候て左程の  
 事に無之候：……  
 （明治39年1月4日）  
 ……凱旋も追々日引々相成候処、  
 愈々本月六日新宿營地ヲ出發致、奉  
 天ニテ二、三日滞在仕候。其より準  
 車行軍ニテ青泥窪ニ到着。十三、四  
 日ニ乗船致シ：……上陸ハ十八、九日  
 ニ相成候。又、丸龜ニ四、五日滞在  
 仕候：……一寸御通知迄 早々  
 ＊青泥窪：大連駅近くの地名  
**宮脇多助**  
 （明治38年12月20日）  
 ……当地は昨今少々雪も降り、積雪  
 約五六寸位、寒暖計平均零下拾九度  
 位に御座候。……



前田森次

(明治38年7月19日)

拝啓：不肖モ御蔭にて極無事ニ  
テ軍務罷在候：当地モ気候は昼  
間極暑ク内地ト等しく、夜間は甚  
涼シク、今頃小麦は甚青ク谷間  
は鶯の鳴声ヲ聞ク。水は青ク、其上  
我中隊は甚高地ニテ東北は何十里  
トイフコトナク見渡ス限り青々タ  
ル長白大山脈ニシテ、晴天時は谷  
間青クシテ、茫々トシテ恰モ大洋  
ノ如ク、敵モ数里先方ニテ滞在ノ  
様子。我軍モ毎日大ナル偵察ヲ出  
スモ：実ニ一戦とは云、実ニ喜  
樂ナコトニ御座候。尚書キタキコ  
ト沢山アレ共、次便ニ譲ル。尚亦、  
講和の話は如何ニ相成り候か。御  
耳ニ下され候。尚暑サノ折ナラバ  
御身大切ニ御保養專ニ祈上候。  
就ては、此の度は父上ニ無沙汰致  
候故ニ何卒御面倒ながら御傳聲を  
祈ル：乱筆御免 以上

\*長白山脈：吉林省の東端、  
北朝鮮との境界に連なる山脈

どの手紙も、故郷を懐かしみ、一日も早い凱旋を待ち望む気持ちにあふれている。旅順包圍戦や奉天会戦を戦い、広大な大陸の冬の厳しさも体験して帰国した彼らは、以後の人生をどのように生きたのだろうか。

なお、日露戦争後も諸物価高騰や米価下落、税の負担増のため、村の暮らしは困難を極めたようだ。そのため、村議会が明年に学校を新築しようとしていることに対して、「多大の村費を要するものは物価の落ち着く時期迄延期の決議」をしてほしいという村議会への要望書（下書きか？）が残っている。日露戦争は、多大の影響を村に与えたのである。

#### 資料⑬「村費多端之義ニ付具状」

(差出人氏名、年月日無し)

(注5)『讃岐香川郡志』の出征者名簿には、大西吉太郎が不記載。若松茂十郎は10年後の世界大戦の欄に載っており、日露戦争に続いて第一次世界大戦にも出征したのだろう。後(后)備歩兵第11旅団というのは、第11師団の戦死者が多かったため、補充されたもの。明治37年6月動員令が出され、8月には大陸に渡った。後備役の兵士で編成されたので精強度は劣る。

#### 5 おわりに

宮脇光次氏が残した多くの資料の紹介が、一通り終わった。どれも、明治期の太田村の人たちの生活に係る一次資料である。

ことに、日露戦争時の軍事郵便は、兵士一人ひとりの心情や、村人が初めて本格的に体験した近代戦の実情までが見えてくるもので、よく今日まで残ったものだと思う。近現代史の貴重な資料としての軍事郵便（日中戦争や太平洋戦争時のものなど）をもっと収集していく必要があるだろう。

#### 参考文献

『太田農協史』（昭和55年）

『太田百年 太田小学校創立百周年記念』（1997年）

『讃岐香川郡志』（昭和19年）

『香川県史5 通史編近代I』（昭和62年）

「軍事郵便の基礎的研究（序）」新井勝紘（2005年）

## 2. 出水調査

- (1) 調査期間 : 平成30年4月～平成31年3月(1日/月の現地調査)
- (2) 調査メンバー : 太田郷土史誌研究会、香川大学
- (3) 調査対象出水 : 上免出水、庄助洞出水、皿井出水、鹿ノ井出水、毛田出水  
(上記以外の出水については写真撮影のみ)
- (4) 調査項目 : 湧水状況、温度、PH、動植物、その他
- (5) 調査結果 (気温、水温、PHの出水毎の年間の推移を図-1に示す)

### ①上免出水

- 東側、西側共に、4月～10月に湧水あり。但し5月は湧水なし。冬場は涸れる。東側に比べて西側の出水の湧水が多い。
- 2～3年前までは、カサミ、フナ、ナズ、ミドリガメも見た。今はいない。(近隣の方の説明) 9月の調査時に、近くの水路でマシを見た。

### ②庄助洞出水

- 4月～11月に湧水あり。5月は湧水なし。6月～10月の間湧水多い。
- フナ(モロ?)、コイ、大きい亀1匹、赤ザリガニ多い(ザリガニ釣り)
- 平成6年(1994)の渇水時に高松市の補助を得てポンプが設置され、その名残りの排水管が残っている。(近隣の方の説明)

### ③皿井出水

- 4月～10月に湧水あり。5月は湧水なし。8月～10月の間湧水多い。
- 水が涸れる時、隣の方が魚を自宅のプールに避難させていた。
- 出口にしっかりした水門あり、昔の水管理の厳しさが偲ばれる
- 「昔から内場ダムが放流したら水量が増している。」(近隣の方)

### ④鹿の井出水

- 1年を通じて湧水あり。出水は東西に長く、その各所から出ている模様。
- 下流の方は公園になっていて錦鯉が放流されている。春は桜の名所になる。

### ⑤毛田出水

- 1年を通じて湧水あり。量は多くない。
- 湧出口の狭い所に、マガ、ザリガニ、タニなど生息

### ⑥その他出水

- 長池出水、合子出水は7月～10月は湧水あり。清掃され、きれい。
- 払井出水、嫁田出水は、コンクリートで囲まれた四角い堀。水は涸れなく、コイ、フナ、ドジョウなど豊富。
- 大吉出水、小吉出水は常に湧出有り。コイ、ウギョなど大型の魚多い。

## (6) その他調査事項(太田南地区の標高と出水の位置)

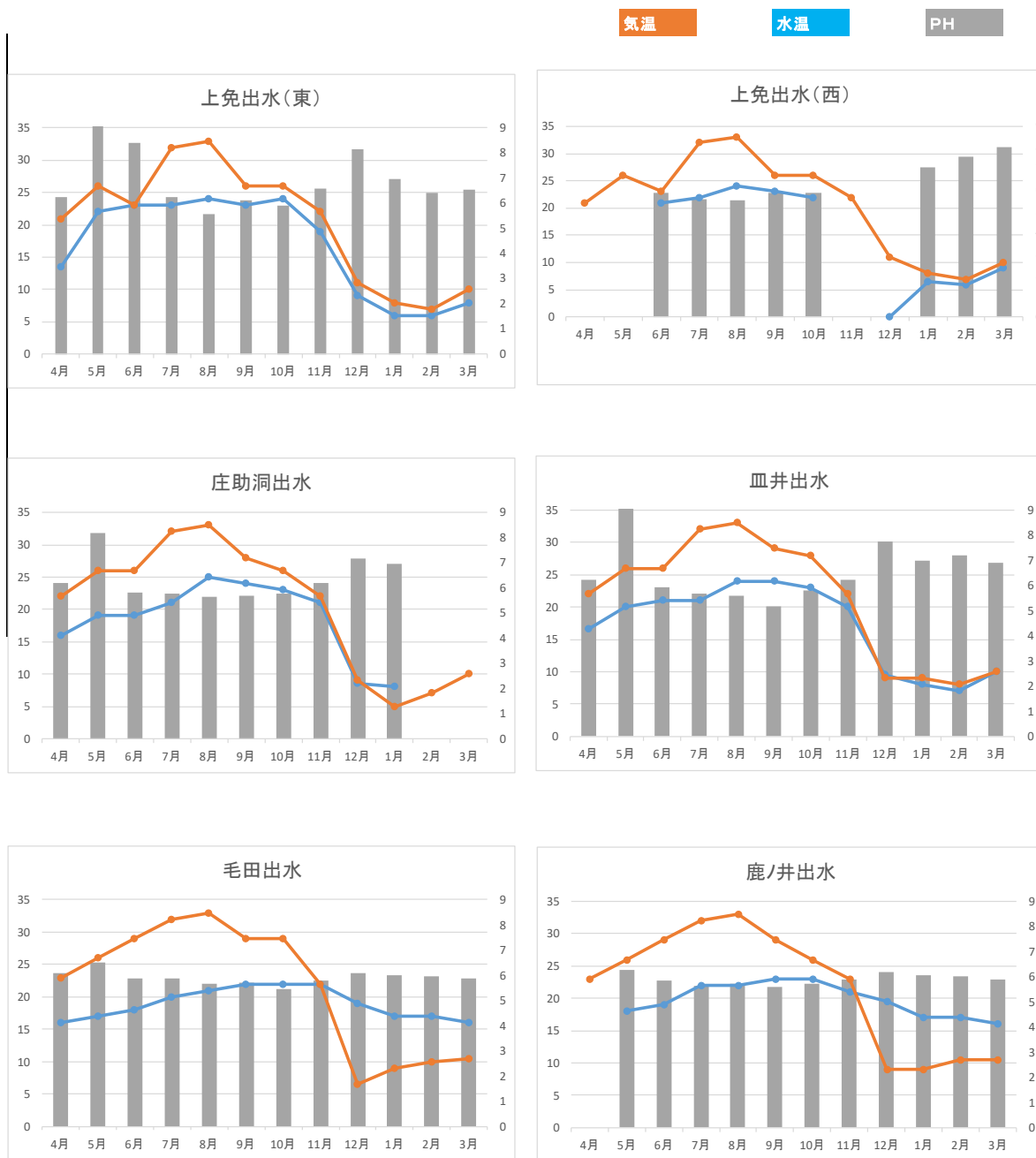
標高は、南西から北東に低くなっている。この方向に地下水脈が流れていると推定。出水もその方向に点在している。(図-2)

「香川ため池誌」にも、太田南地区は香東川の氾濫による扇状地で、南西方向から北東方向に伏流水が流れていると記載されている。(図-3)

この伏流水により、鹿ノ井、毛田、大吉、小吉出水は常に湧水があるものと推察できる。

# 調査出水の水温、気温、PH

(図-1)



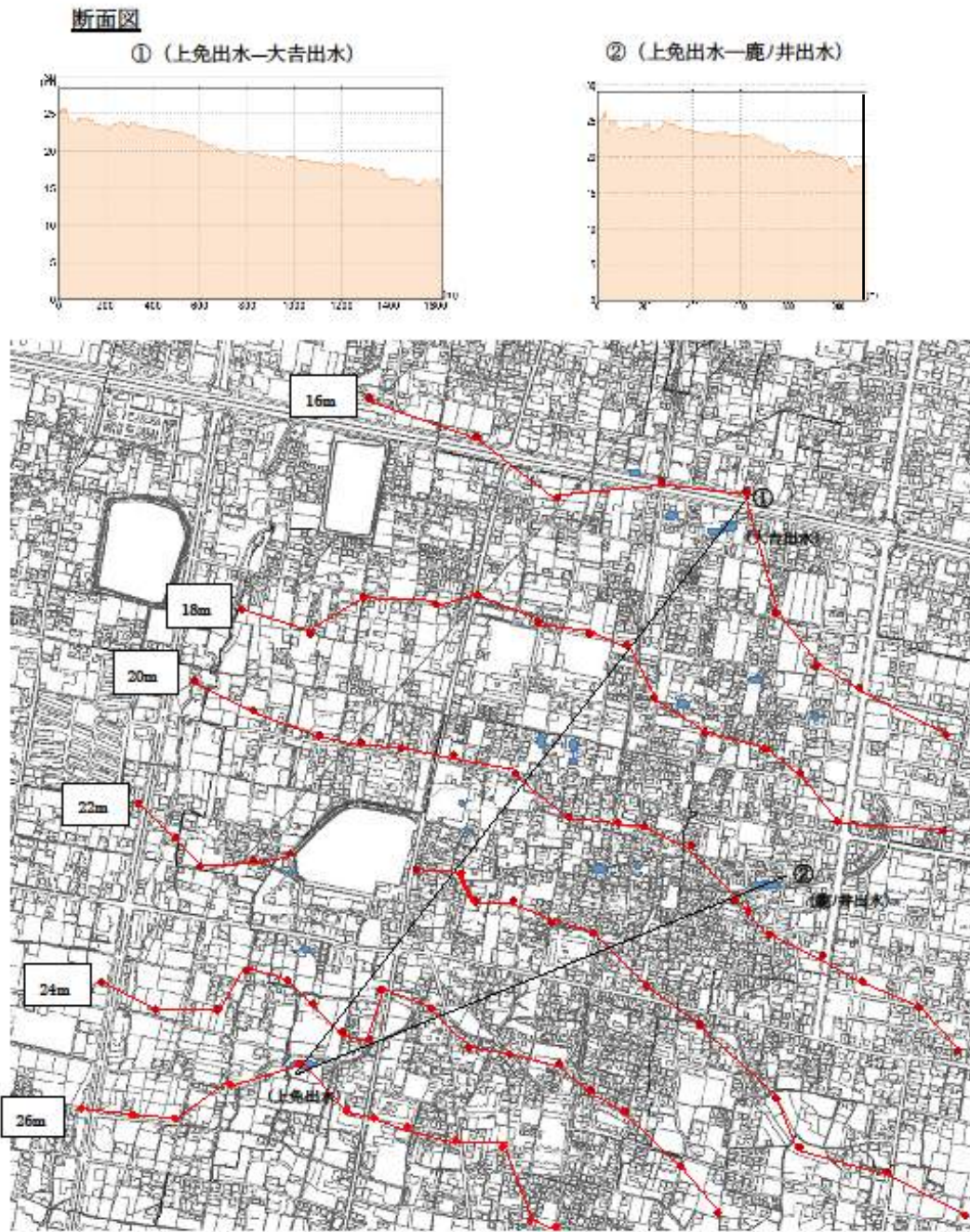
## (観察結果)

毛田出水と鹿ノ井出水の気温と水温の推移を見ると、春から夏にかけて気温が水温を上回り、秋から冬にかけて水温が気温を上回ることが観測される。これは出水の水が地中から湧き出ているので温度が一定しているからである。

一方、上免出水、庄助洞出水、皿井出水は、秋から冬にかけて水温が気温と同じように推移している。これは、これらの出水が夏場しか湧き出していないことを示している。

また、PH値の推移を見ると、湧水が有るときはPH値が5～6で推移していることがわかる。湧水がないときは、概してPH値は高めに出ている。

### 太田南地区の標高と出水の位置



出典 ① 地図 : 高松市作成  
② 高度データ : 国土地理院地図データより

太田南地区の水脈（香川ため池誌より）





香東川東岸は香東川のたび重なる氾濫によって形成された扇状地で、氾濫原である旧川筋はもちろんのこと、仏生山から上林町にかけての線、太田上町から伏石に至る線等に沿って伏流水が多く、数多くの出水があり地層は砂礫層である。

なかでも多肥下町と伏石町が接する位置の東側にある鹿ノ井出水は、規模及び湧水量とも県下最大級の出水である。 (第1節 古代讃岐の開拓と治水利水 P32、33 より抜粋)

## (出水カルテ)

(4月)

出水名	出水No1 上免出水(1回目)	
調査日時	2018年4月1日(日) 10時~10時20分	
調査者	明石豊重、中澤健二、古澤幸夫	
出水観察	湧水状況：東側少し、西側湧水多し 動植物：アメンボ(近隣の方から、2~3年前まではカワセミ、フナ、ナマズ、ミドリガメも見た)	
水温・PH	水温：13.5℃	水位：写真 PH：6.25
天候	当日の気温：21.0℃	
特記事項	近隣の方の話では、冬に藻が腐る。ジャンボタニシが多くなった。	
写真		
		
		(西側の出水)
	(東側の出水)	

出水名	出水N○6 庄助洞 出水 ( 1回目)		
調査日時	2018年4月 1日 (日) 10時30分~10時40分		
調査者	明石豊重、中澤健二、古澤幸夫		
出水観察	湧水：多い 動植物：アメンボ		
水温・PH	水温：16℃	水位：写真	PH：6.18
天候	1週間前からの降水量：ゼロ		当日の気温：22.0℃
特記事項	2月には水が無かった。		
写真			


出水名	出水N○7 皿井 出水 ( 1回目)		
調査日時	2018年4月 1日 (日) 10時40分~10時50分		
調査者	明石豊重、中澤健二、古澤幸夫		
出水観察	湧水：多い 動植物：鯉 出水周辺：		
水温・PH	水温：16.5℃	水位：写真 (出口の堰の高さ)	PH：6.22
天候	1週間前からの降水量：ゼロ		当日の気温：22℃
特記事項	2月には水が無かった。		
写真			

出水名	出水No15 毛田出水(1回目)
調査日時	2018年4月1日(日) 11時18分~11時30分
調査者	明石豊重、中澤健二、古澤幸夫
出水観察	湧水：有り 動植物：メダカ
水温・PH	水温：16.0℃ 水位：写真 PH：6.09
天候	1週間前からの降水量：ゼロ 当日の気温：23.0℃
写真	




(5月)

出水名	出水No1 上免出水(2回目)
調査日時	2018年5月6日(日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、河原さん、松岡さん、軒原さん
出水観察の記録	湧水状況：東側：川から逆流入、西側：無し 動植物：アメンボ 出水東側の方より、「東側の出水のみ整備された時、それまで繋がっていた西側の出水が切り離されたので、湧水量が少なくなり出水の水質が悪化。また、横の川の上流から流れてくる廃棄物が出水に流入し環境を悪化。」
水温・水位・PH	水温：22℃(東側出水)、21℃(出水東側幹線、PH：8.52) 水位：写真 PH：9.73(手前のコンクリート中央付近)、7.58(出口)、6.86(横の川)
天候	当日の気温：26.0℃
特記事項	湧水がない時PHが高い。出口のPHは川の水の流入の影響で低下傾向。
写真	 <p>(西側の出水)</p> <p>(東側の出水)</p>

出水名	出水N○6 庄助洞 出水 ( 2回目)
調査日時	2018年5月 6日 (日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、河原さん、松岡さん、軒原さん
出水観察	湧水：ほとんど無し 動植物：小さいザリガニの死骸3個
水温・PH	水温：19℃ 水位：写真 PH：8.19
天候	当日の気温：26.0℃
特記事項	通りがかりの主婦の方から調査の報告を楽しみにしているとの話し有り。
写真	

出水名	出水N○7 皿井 出水 ( 2回目)
調査日時	2018年5月 6日 (日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、(新見先生、河原さん、松岡さん、軒原さん)
出水観察	湧水：なし 動植物：鯉 (見えない)
水温・PH	水温：20℃ 水位：写真 PH：9.49
天候	当日の気温：26.0℃
特記事項	皿井出水から2方向に水路が出ている。(写真)
写真	

出水名	出水No15 毛田出水 (2回目)
調査日時	2018年5月6日(日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、(新見先生、河原さん、松岡さん、軒原さん)
出水観察	湧水：有り 動植物：メダカ、ザリガニ、タニシ
水温・PH	水温：17.0℃ 水位：写真 PH：6.00
天候	当日の気温：26.0℃
特記事項	上免出水、庄助洞出水、皿井出水と上流の出水の湧水が無い一方、本毛田出水は少ないながら湧出があり、払井出水、大吉出水、小吉出水は湧出量も多かった。大吉出水の水温19℃、PH6.52。 湧水が無い出水のPHが高い理由についてインターネット関連情報： ・元々硬度のある水で、硝酸塩や酸性塩基によりPH≒7の場合、酸性塩類が優先的に食われて緑化するとPHが上がる。
写真	


出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (1回目)
調査日時	2018年5月6日(日) 12時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、(新見先生、河原さん、松岡さん、軒原さん)
出水観察	湧水：有り 動植物：近所の方から、「昔はザリガニが多かったが、今はいない。下流の堰が関係しているかもしれない。また、現在は石の土手であるが、その前はコンクリート、またその前は土の土手であった。」との話し。
水温・PH	水温：18.0℃ 水位： PH：6.28
天候	当日の気温：26.0℃
写真	

(6月)

出水名	出水No1 上免出水(3回目)
調査日時	2018年6月3日(日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：東側(ほとんど無し)、西側(多し) 動植物：アメンボ、水路にザリガニ 用水組合の方が水路の清掃を行ったところであった。出水は清掃されていない。西側の出水には、背丈の高い草(葦?)が生い茂っていた。
水温・PH	水温：23℃(東側出水)、21℃(西側出水) 水位：写真(水深16.5cm) PH：8.40(手前のコンクリート中央付近)、7.58(出口)、5.86(西側出水)
天候	当日の気温：23.0℃
特記事項	西側出水からの湧水量が多いが、東側の出水の湧水量は少ない。 次回から水量を測定する。(毛田出水も)
写真	 <p>(西側の出水)</p> <p>(東側の出水)</p>

出水名	出水No6 庄助洞 出水 (3回目)
調査日時	2018年6月3日(日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：赤ザリガニ5匹
水温・PH	水温：19℃(出口) 21℃(中央) PH：5.82(出口) 5.83(中央)
天候	当日の気温：26℃
特記事項	蓋をしているところの南側の壁と東側の壁の下の方に、大口径のパイプが数本設置されていた。
写真	

出水名	出水No7 皿井 出水 (3回目)
調査日時	2018年6月3日(日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り 動植物：鯉、亀(特大のミシシピイ)
水温・水位・PH	水温：21℃ 水位：写真のように水が溢れる程度 PH：5.93
天候	当日の気温：26℃
特記事項	水が涸れていた時もあるのに、また鯉の姿が見えたのは何故か(?)
写真	

出水名	出水No15 毛田出水 (3回目)
調査日時	2018年6月3日(日) 10時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り 動植物：ザリガニ、タニシ
水温・PH	水温：18.0℃ 水位：写真(4cm) PH：5.87
天候	当日の気温：29℃
写真	

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (2回目)
調査日時	2018年6月3日(日) 12時~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り、それほど多くはない。 動植物：ザリガニ、しおからトンボ
水温・PH	水温：19℃ 水位：12cm(出水南西の隅：写真) PH：5.85 (出水南西の隅)
天候	当日の気温：29℃
写真	

(7月)

出水名	出水No1 上免出水 (4回目)
調査日時	2018年7月1日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察の記録	湧水：東側(有り)、西側(多し) 動植物：アムボ <sup>o</sup> 、糸トボ <sup>o</sup> 、塩辛トボ <sup>o</sup> 西側の出水には、背丈の高い草(蒲)が生い茂っていた。
水温・PH	水温：23℃(東側出水)、22℃(西側出水) 水位：写真 PH：6.25(手前のコンクリート中央付近)、6.39(出口)、5.56(西側出水)
天候	当日の気温：32℃
特記事項	<p>西側出水の湧水量(Q1)の推定 (東側の出水の湧水量は少ない。)</p> <p>○用水路の上流(Q2) (水温 26℃, pH6.28)、同下流(Q3)(24℃, 5.74)、西側出水(Q1)(22℃, 5.56)の値より→水温の異なる2つの水体が混合したことから、Q1、Q2、Q3の割合は1:1:2、すなわち西側出水の湧水量(Q1)は下流の水量(Q3)の約1/2と推定できる。 ※Q1は、Q2、Q3の差からも推定できる。</p> <p>○用水路の下流での水量(Q3)の測定</p> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">← 200cm 西側出水の出口(Q1) ← 上流(Q2) B A</p> </div> <p>◎ A地点の流れの幅 65cm 水深 14cm、B地点の幅 75cm 水深 14cm → 水流の断面積(A) 65cm X 14cm = 910cm<sup>2</sup> 水流の断面積(B) 75cm X 14cm = 1,050cm<sup>2</sup> ※水流の断面積の平均 (910+1,050)/2 = 980cm<sup>2</sup> ①</p> <p>◎ A地点とB地点の流下距離 ②</p> <p>◎ A地点からB地点までの浮子の到達時間 (木の葉で計測) 10s、9.91s、9.46s、9.62s、9.47s → 平均 9.69s ③</p> <p>◎ 平均流速 = 表面流速(200cm/9.69s = 20.64cm/s) × 0.7(係数) = 14.5cm/s ④</p> <p>◎ 水量(Q3) = ① × ④ = 980cm<sup>2</sup> × 14.5cm/s = 14,210cm<sup>3</sup>/s = 14ℓ/s ⑤</p> <p>○西側出水の湧水量(Q1) = Q3/2 = 14/2 = 7ℓ/s ⑥</p> <div style="text-align: center;"> </div>

写 真



(東側の出水)





(西側の出水)

(全 景)






出水名	出水N○6 庄助洞 出水 (4回目)
調査日時	2018年7月1日(日) 9時30分～12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：大きい亀(首の所に赤い筋) 赤ザリガニ1匹(爪負傷)
水温・ 水位・PH	水温：21℃ (出口付近) 水位：写真 PH：5.75 (出口付近)
天 候	当日の気温：32℃
写 真	  

出水名	出水N○7 皿井 出水 (4回目)
調査日時	2018年7月1日(日) 9時30分～12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り 動植物：鯉
水温・PH	水温：21℃ 水位：前回と同様、出口堰から水が溢れる程度 PH：5.70
天 候	当日の気温：32℃
写 真	 


出水名	出水No15 毛田出水 (4回目)
調査日時	2018年7月1日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り 動植物：
水温・PH	水温：20℃ 水位：写真 PH：5.87
天候	当日の気温：32℃
写真	

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (3回目)
調査日時	2018年7月1日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤健二、古澤幸夫、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り、それほど多くはない。 動植物：
水温・PH	水温：22℃ (出水南西の隅) 水位：(写真) PH：5.62 (出水南西の隅)
天候	当日の気温：32℃
写真	


(8月)

出水名	出水No1 上免出水 (5回目)
調査日時	2018年8月5日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん、石井さん、松岡さん、河原さん
出水観察	湧水：東側(有り)、西側(多し) 動植物：銀ヤンマ 西側の出水には、背丈の高い草(蒲)が生い茂っていた。
水温・PH	水温：24℃(東側出水)、24℃(西側出水) 水位：東側:道路より50cm下 PH：5.59(手前のコンクリート中央付近)、5.70(東側出口)、5.52(西側出水)
天候	1週間前からの降水量： 当日の気温：33℃
特記事項	○ 西側の湧水は前回(7/1)より多く、2倍は出ていると思われた。8月3日栗林公園の吹上亭横の地下水汲み上げの水量が、1,800トン/日と説明を受けた。上免出水の西側の湧水量は、7月1日に調査した水量70/秒から、600トン/日となり、8月5日はその倍で、ほぼ栗林公園の使用水量に匹敵することがわかる。上免出水の西側だけで、栗林公園で使用する水量にほぼ匹敵することに驚かされた。一方、栗林公園で使用している水の量が少ないのではないかと思われる。
写真	 <p>(東側の出水)</p>  <p>(西側の出水)</p>  <p>(全景)</p>

出水名	出水No6 庄助洞 出水 (5回目)
調査日時	2018年8月5日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん、石井さん、松岡さん、河原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：ふな(多い)、赤ザリガニ4~5匹
水温・PH	水温：25℃(出口付近) 水位：写真 PH：5.65(出口付近)
天候	当日の気温：33℃
特記事項	太田郷土史誌研究会藤村氏の5歳くらいの時の記憶では、皿井出水から小さな水路を通じて皿井出水の水が庄助洞の方に流れていた。また、皿井出水は今の5倍の大きさであったとのこと。昔はあちこちに小さな出水があった。
写真	  

出水名	出水No7 皿井 出水 (5回目)
調査日時	2018年8月5日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん、石井さん、松岡さん、河原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：鯉(親子、孫)
水温・PH	水温：24℃ 水位：前回と同様、出口堰から水が溢れている PH：5.60
天候	1週間前からの降水量： 当日の気温：33℃
特記事項	近所の奥さん、「昔、内場ダムが放流したら水量が増していた。」
写真	 



出水名	出水No15 毛田出水 (5回目)
調査日時	2018年8月5日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん、石井さん、松岡さん、河原さん
出水観察	湧水：有り 動植物：赤ザリガニ1匹
水温・PH	水温：21℃ 水位：写真 PH：5.65
天候	当日の気温：33℃
写真	

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (4回目)
調査日時	2018年8月5日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん、石井さん、松岡さん、河原さん
出水観察	湧水：有り、それほど多くはない。 動植物：アメンボ
水温・PH	水温：22℃ (出水南西の隅) 水位：(写真) PH：5.72 (出水南西の隅)
天候	当日の気温：33℃
写真	

(9月)

出水名	出水No1 上免出水 (6回目)
調査日時	2018年9月2日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：東側(有り)、西側(多し) 動植物：ザリガニ、マムシ 西側の出水には、背丈の高い草(蒲)が生い茂っていた。
水温・PH	水温：23℃(東側出水)、23℃(西側出水) 水位：東側:道路より50cm下 PH：6.14(手前のコンクリート中央付近)、5.90(東側出口)、5.85(西側出水)
天候	当日の気温：26℃
特記事項	○ 東側、西側の湧水は前回並みと思われる。 ○ 出水近くの水路で、十分生育したマムシ1匹を発見。 ○ 近くのおばさんと叔父さんから、この出水近くでハクビシンやタヌキの 見ることがあるとの話が合った。
写真	 <p>(東側の出水)</p>  <p>(西側の出水)</p>    <p>(全 景)</p> 

出水名	出水No6 庄助洞 出水 (6回目)
調査日時	2018年9月2日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：ふな(鯉?) (多い)、赤ザリガニ (多い)
水温・PH	水温：24℃ (出口付近) 水位：写真 PH：5.70 (出口付近)
天候	当日の気温：28℃
特記事項	<p>○ 地元の人から、出水横の配管の由来を聞くことができた。平成6年の渇水時に高松市は補助金を出して水源の確保を図っており、この出水を管理する水利組合が補助金を得てポンプを設置した。この配管はその時に設置したものとのこと。ただ、出水の水量に比してポンプの能力が大き過ぎて、使い難かったとのこと。</p> <p>出水のすぐ南側の土地(野菜畑)は、出水の土置き場であった。香川用水、内場池の分担金は、2,500~3,500円/反とのこと。</p>
写真	  



出水名	出水No7 皿井 出水 (6回目)
調査日時	2018年9月2日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：鯉(親子、孫)
水温・PH	水温：24℃ 位：前回と同様、出口堰から水が溢れている PH：5.18
天候	当日の気温：29℃
写真	 




出水名	出水No15 毛田出水 (6回目)
調査日時	2018年9月2日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り 動植物：
水温・PH	水温：22℃ 水位：写真(7cm) PH：5.71
天候	当日の気温：29℃
写真	

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (5回目)
調査日時	2018年9月2日(日) 9時30分~12時の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察の記録	湧水：有り、それほど多くはない。 動植物：アメンボ、メダカ(赤、白)複数
水温・PH	水温：23℃(出水南西の隅) 水位：(写真) PH：5.60(出水南西の隅)
天候	当日の気温：29℃
写真	




(10月)

出水名	出水No1 上免出水 (7回目)
調査日時	2018年10月7日(日) 10時~12時20分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：東側(有り)、西側(多し) 西側の出水の出口は、草で覆われていた。 動植物：大きな鯉3匹、中1匹。
水温・PH	水温：24℃(東側出水)、22℃(西側出水) 水位：東側出口の下のコンクリートから22cm。PH：5.92(手前のコンクリート中央付近)、5.84(東側出口)、5.86(西側出口)
天候	当日の気温：26℃
特記事項	○ 東側、西側の湧水は前回並み。東側出水全体が澄んでいた。 ○ 東側の出水の堰板(流失防止用鎖付き)が取り外されていた。
写真	  <p>(西側の出水)</p>   <p>(東側の出水)</p>  <p>(全 景)</p>

出水名	出水N○6 庄助洞 出水 (7回目)
調査日時	2018年10月7日(日) 9時~12時20分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：赤ザリガニ(多い、水源の西奥の浅い所に10数匹、出口付近にも数匹観測される)
水温・PH	水温：23℃(出口付近) PH：5.75(出口付近)
天候	当日の気温：26℃
写真	  




出水名	出水N○7 皿井 出水 (7回目)
調査日時	2018年10月7日(日) 10時~12時30分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：多い 動植物：鯉(多し)
水温・PH	水温：23℃ 水位：前回と同様、出口堰から水が溢れている PH：5.80
天候	当日の気温：28℃
写真	 



出水名	出水No15 毛田出水 (7回目)
調査日時	2018年10月7日(日) 10時~12時20分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り(前回同様、それ程多くない量がコンスタントに出ている。) 動植物：ザリガニ(湧出口に1匹、外に死骸で1匹)
水温・PH	水温：22℃ 水位：写真(5cm) PH：5.45
天候	当日の気温：29℃
特記事項	○出水が清掃されているが、撤去された雑草があぜ道に置きっぱなし。
写真	

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (6回目)
調査日時	2018年10月7日(日) 10時~12時20分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り、それほど多くはない。 動植物：
水温・PH	水温：23℃(出水南西の隅) 水位：(13cm 写真) PH：5.72(出水南西の隅)
天候	当日の気温：26℃
写真	

(11月)

出水名	出水No1 上免出水 (8回目)
調査日時	2018年11月7日(水) 9時30分~12時10分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：東側(無し)、西側(無し) 西側の出水の出口は、草で覆われていた。 動植物：鳥(サギ)
水温・PH	水温：19℃(東側出水西隅)、PH：6.60(東側出水西隅)
天候	当日の気温：22℃
特記事項	○(東側)水がほとんど涸れ、ヘドロ状態で臭い匂い。川から逆流入。 ○(西側)水は溜まっていたが出水から出てはいなかった。
写真	    <p>(西側の出水)</p>   <p>(東側の出水) (全 景)</p>

出水名	出水No6 庄助洞 出水 (8回目)
調査日時	2018年11月7日(水) 9時30分~12時10分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り 動植物：赤ザリガニ(出口付近1匹観測)、魚多し(鯉、モロコ?)
水温・PH	水温：21℃(出口付近) PH：6.19(出口付近)
天候	当日の気温：22℃
特記事項	出口で流量測定 (断面) 2.2cm X 22.0cm X (巾) 17.0cm ÷ (巾の間の水の流れ) 0.25 s X 0.7 = 2,300 cm <sup>3</sup> /s (感覚的にはもう少し少ない)
写真	  

出水名	出水No7 皿井 出水 (8回目)
調査日時	2018年11月7日(水) 9時30分~12時10分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：ほとんど無し 動植物：鯉(多し)
水温・PH	水温：20℃ 水位：前回と同様、出口堰から水が溢れていない PH：6.23
天候	当日の気温：22℃
写真	 


出水名	出水No15 毛田出水 (8回目)
調査日時	2018年11月7日(水) 9時~12時10分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り(前回より多い、量はそれ程多くないがコンスタントに出ている。) 動植物：バツタ
水温・PH	水温：22℃ 水位：写真(4.5cm) PH：5.8
天候	当日の気温：22℃
特記事項	○出水が清掃されているが、撤去された雑草があぜ道に置きっぱなし。
写真	

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (7回目)
調査日時	2018年11月7日(水) 9時30分~12時10分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り、それほど多くはない。
水温・PH	水温：21℃(南西の隅) 水位：(12cm、写真) PH：5.87(南西の隅)
天候	当日の気温：23℃
写真	


(12月)


出水名	出水No1 上免出水 (9回目)	
調査日時	2018年12月8日(土) 9時30分~12時30分の間	
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん	
出水観察	湧水：東側(無し)、西側(無し) 西側の出水の出口は、草で覆われていた。 動植物：アムボ、タニシ	
水温・PH	水温：9℃ (東側出水西隅)、PH：8.15 (東側出水西隅)	
天候	当日の気温：11℃	
特記事項	○ (東側) 水がほとんど涸れ、(西側) 水は溜まっていた。 ○ 今回西側奥の出水を調査。川の水が流入して、湧水の有無は観察不可。	
写真	 <p>(東側の出水)</p>	 <p>(西側の出水)</p>
		 <p>(全 景)</p>
	 <p>(西側奥の出水)</p>	 <p>(西側奥の出水)</p>

出水名	出水No6 庄助洞 出水 (9回目)
調査日時	2018年12月8日(土) 9時30分~12時30分の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	水温：8.5℃(中央) 水位：前回より50cm以上低い。PH：7.16(中央)
天候	当日の気温：9℃
特記事項	道を挟んで東側の埋め立てられた出水の所から土管が8本出てきている。
写真	

出水名	出水No7 皿井 出水 (9回目)
調査日時	2018年12月8日(水) 9時30分~12時30分の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	水温：9.5℃ 水位：前回50cm以上低い。PH：7.76
天候	当日の気温：9℃
写真	



出水名	出水No15 毛田出水 (9回目)
調査日時	2018年12月8日(土) 9時~12時30分の間
調査者	中澤、明石、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り(前回より多い、量はそれ程多くないがコンスタントに出ている。) 動植物：湧水口にマガキ、ザリガニ(4匹)、ドジョウ(2匹)、鳩(1羽)
水温・PH	水温：19℃ 水位：写真(4.5cm) PH：6.07
天候	当日の気温：6.5℃
特記事項	○出水が清掃されているが、撤去された雑草があぜ道に置きっぱなし。
写真	

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (7回目)
調査日時	2018年12月8日(土) 9時30分~12時30分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り、西端の角からは少ないが、下流側で湧水は多いようだ。水が湧いている所が明確には分からない。
水温・PH	(西端の南西の角) 水温：19.5℃ PH：6.20 (東側の水量が多い所) 水温：18℃ PH：6.37
天候	当日の気温：9℃
特記事項	これまで西端の南西の角のみ観察していたが、鹿ノ井出水は長い水路状になっていて、下流の方が良くわき出ているよう。これまでの調査箇所をもっと広げて観察する必要がある。
写真	

(1月)

出水名	出水No1 上免出水 (10回目)	
調査日時	2019年1月6日(日) 9時30分~11時50分の間	
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん	
出水観察	湧水：東側(無し)、西側(無し) 木、草等刈り込み済み	
水温・PH	水温：6℃ (東側出水西隅)、PH：6.96 (東側出水西隅) 水温：6.5℃ (西側出水中央)、PH：7.07 (西側出水中央)	
天候	当日の気温：8℃	
特記事項	(東側、西側) 水がほとんど涸れて、たまり水がある程度。	
写真	 	 
	(東側の出水)	(西側の出水)
		
	(全 景)	

出水名	出水N○6 庄助洞 出水 (10回目)
調査日時	2019年1月6日(日) 9時30分～11時50分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	水温：8℃ PH：6.95 出口水門付近に、道路の下を通過して東側から流れ込んでいるたまり水を採取、その他に水は無し。
天候	当日の気温：5℃
特記事項	道を挟んで東側の埋立てられた出水の所から土管が8本出てきている。
写真	  <p>(ザリガニが冬眠している穴)</p> 


出水名	出水N○7 皿井 出水 (10回目)
調査日時	2019年1月6日(日) 9時30分～11時50分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	水温：8℃ (中央のたまり水) PH：6.98 (中央のたまり水)
天候	当日の気温：9℃
特記事項	<p>○出水となりの(有)美希建設の方が、出水の水が少なくなったら、魚を自身のプールに移動させ、水が出たら戻されていた。その方から、昭和30年代くらいから冬場に出水が涸れるようになったとのこと。今年は涸れるのが遅く、例年は10月に入ったら涸れているとのこと。</p> <p>○出水の魚は、鯉、まぶな、モロコ、ナマズ、ハゼがいるとのこと。</p>
写真	

出水名	出水N○15 毛田出水 (10回目)
調査日時	2019年1月6日(日) 9時30分~11時50分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り (量はそれ程多くないが、今までで一番多い感じ) 動植物：湧水口にザリガニ(4~5匹)、ドジョウ(1匹)、小魚(数匹)
水温・PH	水温：17℃ (温かく感じられた) 水位：写真 (4.5 cm) PH：6.02
天候	当日の気温：9℃
特記事項	○出水が清掃されているが、撤去された雑草があぜ道に置きっぱなし。
写真	

出水名	出水N○11 鹿ノ井出水 (9回目)
調査日時	2019年1月5日(日) 9時30分~11時50分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生、軒原さん
出水観察	湧水：有り、西端の角からは少ないが、下流側で湧水は多いようだが湧いている所が明確には分からない。
水温・PH	(西端の南西の角) 水温：17℃ PH：6.05 (西側の北西の角から少し東) 水温：11℃ PH：6.20
天候	当日の気温：9℃
特記事項	これまで西端の南西の角のみ観察していたが、鹿ノ井出水は長い水路状になっていて、下流の方が良くわき出ているようだ。これまでの調査箇所をもっと広げて観察する必要がある。
写真	

(2月)

出水名	出水No.1 上免出水 (11回目)
調査日時	2019年 2月3日(日) 9時30分~11時40分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生
出水観察	湧水：東側(無し)、西側(無し) 木、草等刈り込み済み
水温・PH	水温：6℃ (東側出水井戸の中)、PH：6.43 (東側出水井戸の中) 水温：6℃ (西側出水中央)、PH：7.57 (西側出水中央)
天候	当日の気温：7℃
特記事項	(東側) 完全に涸れていて、井戸の中に水が溜まっていた。水位は井戸の淵から 20cm くらい下であった。(西側) たまり水がある程度。
写真	 <p>(東側の出水)</p>  <p>(西側の出水)</p>  <p>(全 景)</p>

出水名	出水N○6 庄助洞 出水 (11回目)
調査日時	2019年2月3日(日) 9時30分～11時40分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	
天候	当日の気温：6℃
特記事項	道を挟んで東側の埋め立てられた出水の所から土管8本出てきている。
写真	

出水名	出水N○7 皿井 出水 (11回目)
調査日時	2019年2月3日(日) 9時30分～11時40分の間
調査者	中澤、古澤、新見先生
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	水温：7℃ (中央のたまり水) PH：7.2 (中央のたまり水)
天候	当日の気温：8℃
特記事項	
写真	

出水名	出水No15 毛田出水 (11回目)	
調査日時	2019年2月3日(日) 9時30分～11時40分の間	
調査者	中澤、古澤、新見先生	
出水観察	湧水：有り (冬場に湧水量が多くなる感じ) 動植物：湧水口にザリガニ(8匹)、めだか(2匹)	
水温・PH	水温：17℃ (温かく感じられた)	水位：写真 (5 cm) PH：5.94
天候	当日の気温：10℃	
特記事項	○出水が清掃されているが、撤去された雑草があぜ道に置きっぱなし。	
写真		

出水名	出水No11 鹿ノ井出水 (10回目)	
調査日時	2019年2月3日(日) 9時30分～11時40分の間	
調査者	中澤、古澤、新見先生	
出水観察	湧水：有り、西端の角からは少ないが、下流側で湧水は多いようだ。水が湧いている所が明確には分からない。 動植物：	
水温・PH	(西端の南西の角) 水温：17℃ PH：6.02	
天候	当日の気温：10.5℃	
特記事項		
写真		

(3月)

出水名	出水No1 上免出水 (12回目)
調査日時	2019年3月3日(日) 9時30分~11時30分の間
調査者	古澤、新見先生
出水観察	湧水：東側(無し)、西側(無し) 木、草等刈り込み済み 動植物：
水温・PH	水温：8℃ (東側出水井戸の中)、PH：6.53 (東側出水井戸の中) 水温：9℃ (西側出水中央)、PH：8.0 (西側出水中央)
天候	当日の気温：10℃
特記事項	(東側) 完全に涸れていて、井戸の中に水が溜まっていた。水位は井戸の淵から20cmくらい下であった。(西側) たまり水がある程度。
写真	 <p>(東側の出水) (西側の出水)</p>  <p>(全 景)</p>



出水名	出水No.6 庄助洞 出水 (12回目)
調査日時	2019年3月3日(日) 9時30分～11時30分の間
調査者	古澤、新見先生
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	
天候	当日の気温：10.5℃
特記事項	道を挟んで東側の埋め立てられた出水の所から土管が8本出てきてい。
写真	

出水名	出水No.7 皿井 出水 (12回目)
調査日時	2019年3月3日(日) 9時30分～11時30分の間
調査者	古澤、新見先生
出水観察	湧水：無し 動植物：観察されず。
水温・PH	水温：10.5℃ PH：6.5
天候	当日の気温：10.5℃
写真	

出水名	出水No15 毛田出水 (12回目)
調査日時	2019年3月3日(日) 9時30分~11時30分の間
調査者	古澤、新見先生
出水観察	湧水：有り (冬場に湧水量が多くなる感じ) 動植物：湧水口にザリガニ(多数)、めだか(多数)
水温・PH	水温：16℃ PH：5.88
天候	当日の気温：10.5℃
写真	  <p>(全 景) (出水湧出口内)</p>

出水名	出水No11 鹿井出水 (11回目)
調査日時	2019年2月3日(日) 9時30分~11時40分の間
調査者	古澤、新見先生
出水観察	湧水：有り、西端の角からは少ないが、下流側で湧水は多いようだ 水が湧いている所が明確には分からない。 動植物：河津桜が満開
水温・PH	(西端の南西の角) 水温：16℃ PH：5.90
天候	当日の気温：10.5℃
写真	  

## 各出水の輝く写真（平成30年度）

出水名	写 真	出水名	写 真
①上免 4月1日		⑪鹿ノ井 4月1日 桜祭り	
②巫女神 4月1日		⑫鹿ノ井新 4月1日	
③廣田神社 9月2日		⑬払井 6月3日	
④花の井 11月7日		⑭嫁田 8月5日	
⑤神泉 12月8日	  <p style="text-align: center;">10月7日 (初めて湧水を見る)</p>	⑮毛田 8月5日	

<p>⑥庄助 洞 7月1日</p>		<p>⑯須川 4月1日</p>	
<p>⑦皿井 6月3日</p>		<p>⑰大吉 6月3日</p>	
<p>⑧皿井 新 8月5日</p>		<p>⑱小吉 6月3日</p>	
<p>⑨長池 7月1日</p>		<p>⑲桑の 股 5月10日</p>	
<p>⑩合子 8月5日</p>		<p>⑨長池 7月1日 <u>電車と出水</u></p>	

## 編集後記

本活動報告書は、毎年度の活動を記録するとともに、調査・研究した成果を整理・保管することにより、研究会の活動の成果を積み重ねていくことに重点をおいた。

そのため、本編を大きく「活動編」と「調査・研究編」に分け整理し、それを毎年積み重ねていくこととした。

本年 7 月に太田南コミュニティ協議会により策定された「第 2 次コミュニティプラン」に「地域の歴史・文化の継承」が目標の一つにあげられており、当研究会の活動がその目的に少しでも寄与出来ることを願っている。また、太田南地区に残された貴重な資料やこれまで調査研究した成果を展示し、地区の皆様が気軽に立ち寄り、見ることが出来る場所が確保されることを期待したい。

本年度の活動報告書は、以下のメンバーが毎月 1 回会合や現地調査を行い調査・研究したものである。

明石豊重	東 秀憲	安藤みどり	井上和也	大住教夫	十川信孝
中澤健二	藤田修平	藤村雅範	古澤幸夫	山下智子	

事務局長 古澤幸夫